

平成 29（2017）年度

社会科学研究所経営学専攻
(高度専門職業人養成プログラム)

授業概要・履修案内

首都大学東京大学院社会科学研究所

平成29年度高度専門職業人養成プログラム（MBA）学年暦

暦	日	月	火	水	木	金	土	行 事 等
4月							1	4月1日 入学ガイダンス
	2	3	4	5	6	7	8	4月3日 前期授業開始
	9	10	11	12	13	14	15	4月7日 入学式(全学)
	16	17	18	19	20	21	22	4月中旬～下旬(別途通知) 前期履修申請
	23	24	25	26	27	28	29	
	30	1	2	3	4	5	6	5月2日 休講日
5月	7	8	9	10	11	12	13	
	14	15	16	17	18	19	20	
	21	22	23	24	25	26	27	
	28	29	30	31	1	2	3	
6月	4	5	6	7	8	9	10	
	11	12	13	14	15	16	17	
	18	19	20	21	22	23	24	
	25	26	27	28	29	30	1	
7月	2	3	4	5	6	7	8	
	9	10	11	12	13	14	15	7月13日 修士論文・課題研究中間審査申請締切
	16	17	18	19	20	21	22	7月24日～8月5日(7月29日を除く) 前期末試験・補講日
	23	24	25	26	27	28	29	7月29日 修士論文・課題研究中間審査
	30	31	1	2	3	4	5	7月31日 <9月修了生>修士論文・課題研究提出締切
8月	6	7	8	9	10	11	12	8月7日～9月30日 夏季休業(集中授業期間)
	13	14	15	16	17	18	19	
	20	21	22	23	24	25	26	
	27	28	29	30	31	1	2	
	3	4	5	6	7	8	9	9月2日 前期一般入試
9月	10	11	12	13	14	15	16	9月3日 前期一般入試(予備日)
	17	18	19	20	21	22	23	
	24	25	26	27	28	29	30	
	1	2	3	4	5	6	7	9月30日 <9月修了生>学位記授与式
10月	8	9	10	11	12	13	14	10月2日 後期授業開始
	15	16	17	18	19	20	21	10月上～中旬(別途通知) 後期履修申請
	22	23	24	25	26	27	28	
	29	30	31	1	2	3	4	
	5	6	7	8	9	10	11	11月1日 休講日
11月	12	13	14	15	16	17	18	
	19	20	21	22	23	24	25	
	26	27	28	29	30	1	2	
	3	4	5	6	7	8	9	
12月	10	11	12	13	14	15	16	12月29日～1月3日 冬季休業
	17	18	19	20	21	22	23	1月4日 休講日
	24	25	26	27	28	29	30	1月5日 後期授業再開
	31	1	2	3	4	5	6	1月10日 修士論文・課題研究提出締切
	7	8	9	10	11	12	13	<9月修了生>中間審査申請締切
1月	14	15	16	17	18	19	20	1月23日, 1月30日～2月9日 後期末試験・補講日
	21	22	23	24	25	26	27	(2月3日を除く)
	28	29	30	31	1	2	3	2月3日 修士論文・課題研究審査
	4	5	6	7	8	9	10	<9月修了生>中間審査
2月	11	12	13	14	15	16	17	2月10日 後期一般・公共経営入試
	18	19	20	21	22	23	24	2月10日から 春季休業
	25	26	27	28	1	2	3	2月17日 後期一般・公共経営入試(予備日)
	4	5	6	7	8	9	10	
3月	11	12	13	14	15	16	17	未定 卒業式(全学)
	18	19	20	21	22	23	24	3月24日 学位記授与式
	25	26	27	28	29	30	31	

※ 数字が白抜きの日は休日ですので入館できません。

※ 変更がある場合は、掲示等でお知らせします。必ず所定の掲示版をご確認ください。

※ 休講日には通常授業はありませんが補講等が設定される場合があります。事務室は開いています。

目 次

I	専任教員等一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
II	経営学専攻（高度専門職業人養成プログラム）の修了要件・・・・・・・・	2
III	丸の内サテライトキャンパス授業時間について・・・・・・・・・・	4
IV	授業科目一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・	5
V	授業概要	
	◆ 第Ⅰ群科目・・・・・・・・・・・・・・・・・・	9
	◆ 第Ⅱ群科目・・・・・・・・・・・・・・・・・・	27
VI	交通機関運休の場合等の授業の取扱いについて・・・・・・・・・・	55
VII	丸の内サテライトキャンパス平面図・・・・・・・・・・	56

I. 専任教員等一覧

1 専任教員

職	氏 名	研究室	研究室電話（直通）
教 授	桑 田 耕太郎	4階 4 1 5	0 4 2 （6 7 7） 2 3 2 8
教 授	芝 田 隆 志	2階 2 3 1	0 4 2 （6 7 7） 2 3 1 0
教 授	高 尾 義 明	2階 2 2 4	0 4 2 （6 7 7） 2 3 1 4
教 授	竹 田 陽 子	2階 2 2 5	未定
教 授	長 瀬 勝 彦	4階 4 0 4	0 4 2 （6 7 7） 1 1 5 2
教 授	野 口 昌 良	4階 4 1 8	0 4 2 （6 7 7） 2 3 0 8
教 授	細 海 昌一郎	2階 2 3 3	0 4 2 （6 7 7） 2 3 1 1
教 授	松 田 千恵子	4階 4 0 6	0 4 2 （6 7 7） 2 3 2 3
教 授	室 田 一 雄	4階 4 0 2	0 4 2 （6 7 7） 2 3 2 2
教 授	山 下 英 明	4階 4 1 3	0 4 2 （6 7 7） 2 3 2 6
教 授	渡 辺 隆 裕	4階 4 1 1	0 4 2 （6 7 7） 1 1 3 9
准教授	高 橋 勅 徳	3階 3 0 6	0 4 2 （6 7 7） 2 3 2 4
准教授	中 山 厚 穂	4階 4 1 6	0 4 2 （6 7 7） 2 3 1 6
准教授	西 村 孝 史	3階 3 0 5	0 4 2 （6 7 7） 2 3 3 1
准教授	松 尾 隆	2階 2 3 6	0 4 2 （6 7 7） 1 1 3 6
准教授	水 越 康 介	2階 2 3 5	0 4 2 （6 7 7） 2 3 1 3
准教授	森 治 憲	4階 4 1 2	0 4 2 （6 7 7） 2 3 2 5
准教授	森 口 聡 子	3階 3 1 2	0 4 2 （6 7 7） 2 3 2 1

※1 研究室はいずれも南大沢キャンパス3号館

※2 今年度の授業を担当する教員のみ掲載

2 非常勤講師

岡 本 享 二
 坂 巻 敏 史
 坂 本 雅 明
 照 屋 華 子
 中 岡 英 隆
 溝 田 宗 司
 村 上 裕太郎
 森 本 博 行

Ⅱ．経営学専攻（高度専門職業人養成プログラム）の修了要件

経営学専攻博士前期（修士）課程を修了するためには、所定の単位を取得したうえで修士論文又は特定の課題についての研究成果（以下「課題研究論文」という）を提出し、最終試験に合格しなければなりません。

学位取得の条件は以下の通りです。修士論文提出者と課題研究論文提出者とでは必要取得単位数が異なるので注意して下さい。

なお、修士論文と課題研究論文の選択は、1年次末に決定される指導教員による指導の過程において行います。

1 修士論文を提出して学位を取得するもの

- ① 第Ⅰ群科目から12単位以上、合計30単位以上を取得
- ② 経営学特別演習2単位以上及び研究指導4単位（注1）を履修し、修士論文を提出
- ③ 第Ⅲ群科目（注2）を8単位まで含めることができる

2 課題研究論文を提出して学位を取得するもの

- ① 第Ⅰ群科目から12単位以上、合計36単位以上を取得
- ② 経営学特別演習2単位以上及び研究指導4単位（注1）を履修し、課題研究論文を提出
- ③ 第Ⅲ群科目（注2）を8単位まで含めることができる

注1. 研究指導は半期2単位の計4単位

平成28年度入学生から研究指導は4単位を履修上限とする

2. 第Ⅲ群科目とは、以下の科目をさす

- ・ マクロ経済学
- ・ 高度金融専門人材養成プログラム開講科目（但しファイナンス特別講義（コーポレートファイナンス）、ファイナンス演習、ファイナンス考究、研究指導は除く）
- ・ 研究者養成プログラム（南大沢キャンパス）開講科目（但し研究指導は除く）

※ 経営学特別演習（注：経営学演習でない）及び研究指導は必修科目であり、修了に必要な単位数（合計30単位または36単位）に含まれる。

※ 研究指導は1年次生は履修できない。

※ 一度単位を取得した科目については、再度履修することはできない（研究指導を除く）。

3 専攻に準ずる科目

専攻に準ずる科目とは他の専攻の科目であり、10単位までを経営学専攻の単位に加えることができる。

専攻に準ずる科目の履修については、履修前にその科目を担当する教員の許可と社会科学研究所教授会の承認を必要とする。

履修にあたっては、指導教員に相談の上、別途定める期限までに事務室に申請書を提出すること。

4 科目区分について

必ず、「Ⅲ. 授業科目一覧」の**入学年度の授業科目**を参照し、履修に関し疑義がある場合は、事務担当に相談すること。

Ⅲ. 丸の内サテライトキャンパス授業時間について

丸の内サテライトキャンパスの授業時間は以下のとおりです。平日と土曜日で授業時間が異なります。また南大沢キャンパスとも授業時間が異なりますのでご注意ください。

【月曜日～金曜日】

時限	授業時間	主な授業実施プログラム
1 時限	9:30 ～ 11:00	高度金融専門人材養成プログラム (MF)
2 時限	11:15 ～ 12:45	
3 時限	14:00 ～ 15:30	
4 時限	15:45 ～ 17:15	
5 時限	18:20 ～ 19:50	高度専門職業人養成プログラム (MBA) ※
6 時限	20:00 ～ 21:30	

※2015 年度までの高度専門職業人養成プログラムの 1 時限及び 2 時限は、2016 年度から 5 時限及び 6 時限という表記に変更しました。授業時間に変更はありません。

【土曜日】

時限	授業時間	主な授業実施プログラム
1 時限	10:30 ～ 12:00	高度専門職業人養成プログラム (MBA)
2 時限	13:00 ～ 14:30	
3 時限	14:40 ～ 16:10	
4 時限	16:20 ～ 17:50	

Ⅳ．授業科目一覧

区分	頁	授業科目		単位	担当教員	備考
		～2015年度入学生	2016年度～入学生			
第Ⅰ群 科	11	経営学特論	経営学特論	2	桑 田 耕太郎	
	12	経営戦略特論	経営戦略特論	2	竹 田 陽 子	
	13	経営戦略特別演習	経営戦略特別演習	2	松 田 千恵子	
	14	経営組織特論	経営組織特論	2	高 尾 義 明	
	15	意思決定特論	意思決定特論	2	長 瀬 勝 彦	
	16	テクノロジー・マネジメント特論	テクノロジー・マネジメント特論	2	松 尾 隆	
	17	コーポレート・ファイナンス特論	コーポレート・ファイナンス特論	2	中 岡 英 隆	
		金融工学基礎特論	(科目廃止)	2		今年度休講
	18	マネジメント・サイエンス特論Ⅰ	マネジメント・サイエンス特論Ⅰ	2	森 口 聡 子	
	19	マーケティング・マネジメント特論	マーケティング・マネジメント特論	2	水 越 康 介	
	20	マーケティング・サイエンス特論	マーケティング・サイエンス特論	2	中 山 厚 徳	
	21	企業経済学基礎特論	企業経済学基礎特論	2	芝 田 隆 志	
	22	戦略的ゲーム理論特論	戦略的ゲーム理論特論	2	渡 辺 隆 裕	
	23	経営分析特論	経営分析特論	2	村 上 裕太郎	
	24	管理会計特論	管理会計特論	2	細 海 昌一郎	
	25	財務会計特論	財務会計特論	2	野 口 昌 良	
		金融数学特論	(科目廃止)	2		今年度休講
	26	証券投資特論	証券投資特論	2	坂 巻 敏 史	
		経営データ分析特論	経営データ分析特論	2		今年度休講
第Ⅱ群 科	29	国際経営特論	国際経営特論	2	森 本 博 行	
		組織行動特論	組織行動特論	2		今年度休講
	30	ヒューマン・リソース・マネジメント特論	ヒューマン・リソース・マネジメント特論	2	西 村 孝 史	
		生産戦略特論	生産戦略特論	2		今年度休講
		マーケティング戦略特別演習	マーケティング戦略特別演習	2		今年度休講
	31	ベンチャービジネス特論	ベンチャービジネス特論	2	高 橋 勲 徳	
	32	ビジネスイノベーション特別演習	ビジネスイノベーション特別演習	2	高 橋 勲 徳	
		企業変革論特別演習	企業変革論特別演習	2		今年度休講
		市場リスク特論	(科目廃止)	2		今年度休講
		信用リスク特論	信用リスク特論	2		今年度休講
		資産価格特論	資産価格特論	2		今年度休講
		リアルオプション特論	リアルオプション特論	2		今年度休講
		デリバティブ特論	(科目廃止)	2		今年度休講
		金融計量分析特論	(科目廃止)	2		今年度休講
		金融システム特論	金融システム特論	2		今年度休講
		経営学演習（経営財務論Ⅰ）	経営学演習（経営財務論Ⅰ）	2		今年度休講
		経営学演習（経営財務論Ⅱ）	経営学演習（経営財務論Ⅱ）	2		今年度休講
	33	マネジメント・サイエンス特論Ⅱ	マネジメント・サイエンス特論Ⅱ	2	山 下 英 明	
	34	マーケティング・サイエンス特別演習	マーケティング・サイエンス特別演習	2	森 治 憲	
		時系列解析特論	時系列解析特論	2		今年度休講
	35	経営数理特論	経営数理特論	2	室 田 一 雄	
		経営史特論	経営史特論	2		今年度休講
		現代日本経済史特論	現代日本経済史特論	2		今年度休講
	36	ロジカル・シンキング特別演習	ロジカル・シンキング特別演習	2	長 瀬 勝 彦	
	37	ロジカル・ライティングⅠ	ロジカル・ライティングⅠ	2	照 屋 華 子	
	38	ロジカル・ライティングⅡ	ロジカル・ライティングⅡ	2	照 屋 華 子	
	39	経営学演習（グループ研究Ⅰ）	経営学演習（グループ研究Ⅰ）	2	オムニバス	
		経営学演習（グループ研究Ⅱ）	経営学演習（グループ研究Ⅱ）	2		今年度休講
		経営学演習（財務戦略）	経営学演習（財務戦略）	2		今年度休講
		経営学演習（マーケティング・リサーチ）	経営学演習（マーケティング・リサーチ）	2		今年度休講
	40	経営学演習（公共経営アクションリサーチ）	経営学演習（公共経営アクションリサーチ）	2	高尾・西村	
	41	経営学演習（知的財産法）	経営学演習（知的財産法）	2	溝 田 宗 司	
		経営学演習（会社法）	経営学演習（会社法）	2		今年度休講
	42	経営学演習（経営戦略とリアルオプション）	経営学演習（経営戦略とリアルオプション）	2	中 岡 英 隆	
		経営学演習（英語プレゼンテーション・スキル）	経営学演習（英語プレゼンテーション・スキル）	2		今年度休講
	43	経営学演習（企業倫理）	経営学演習（企業倫理）	2	岡 本 享 二	
	44	経営学演習（CSR特論）	経営学演習（CSR特論）	2	岡 本 享 二	
	45	経営学演習（戦略経営Ⅰ）	経営学演習（戦略経営Ⅰ）	2	坂 本 雅 明	
	46	経営学演習（戦略経営Ⅱ）	経営学演習（戦略経営Ⅱ）	2	坂 本 雅 明	
	47	経営学演習（ケース）	経営学演習（ケース）	2	西 村 孝 史	
	48～	経営学特別演習	経営学特別演習	2	各 教 員	
目		研究指導	研究指導	2	各 教 員	
第Ⅲ群 科目	—	マクロ経済学	マクロ経済学	2	荒 戸 寛 樹	新規開講
		研究者養成プログラム（南大沢キャンパス）及び高度金融専門人材養成プログラム開講科目、但し除外科目あり				

※ 経営学特別演習及び研究指導は必修科目

V. 授 業 概 要

第 I 群 科 目

授業科目名	M	経営学特論	授業番号	P003	単位数	2
担当教員	桑田 耕太郎		前期 I	土曜日	3 時限, 4 時限	
①授業方針・テーマ	経営学は現代産業社会の基礎的構成要素である企業を対象とし、企業およびそのベースとなっている産業社会の構造や行動のメカニズムを解明する学問です。この授業では、ビジネススクール入学前に、特に経営学のトレーニングを受けていない学生を主要な対象として、企業の外部環境への適応と、内部統合・経営管理の主要なトピックスについて、具体的な事例をひきつつ、経営学の基礎知識と経営学的な思考様式を学ぶことを目的としています。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	経営学は現代産業社会の基礎的構成要素である企業を対象とし、企業およびそのベースとなっている産業社会の構造や行動のメカニズムを解明する学問です。この授業では、企業の外部環境への適応と、内部統合・経営管理の主要なトピックスについて、具体的な事例をひきつつ、経営学の基礎知識と経営学的な思考様式を学ぶことを目的としています。					
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	I 経営学の基本的フレームワーク 第1回 なぜ経営学を学ぶのか 第2回 企業と経営 第3回 組織の概念と経営者の役割 第4回 意思決定の概念とプロセス II 経営行動の分析—デザインパースペクティブ 第5・6回 経営戦略のデザイン 第7・8回 競争優位の獲得 第9・10回 経営組織構造のデザイン 第11・12回 組織の中の人間と管理 III 企業成長と経営政策 第13回 企業の成長と発展 第14・15回 現代企業の諸課題 [授業外学習] ケース、指定文献の予習は必ず行うこと。					
④テキスト・参考書等	テキスト：特に指定しないが、随時紹介する。桑田耕太郎・田尾雅夫『組織論』有斐閣は事前に読んでおくことが望ましい。 参考文献： 伊丹敬之・加護野忠男『ゼミナール経営学入門』日本経済新聞社 A. D. チャンドラー『組織は戦略に従う』ダイヤモンド社 C. I. バーナード『経営者の役割』ダイヤモンド社					
⑤成績評価方法	随時おこなうレポート（50％）および授業への貢献（50％）による					
⑥特記事項 (他の授業科目との関連性)	これまで経営学を学んだことのない学生に、特に推奨する 経営戦略、経営組織論、ヒューマンリソースマネジメント、経営行動論、マーケティングなどを専攻する学生にとっては、特に重要な導入科目である。 授業に必要な資料や課題の配布、質問、相談、アポイントメントは、メール<kkuwada@tmu.ac.jp>等を活用して行う。					

授業科目名	M	経営戦略特論	授業番号	P037	単位数	2
担当教員	竹田 陽子		後期	水曜日	5 時限, 6 時限	
①授業方針・テーマ	経営戦略の主要理論を、ケース・文献討議、グループワークを通じて実践と結びつけて学びます。ある企業がどのような範囲で事業を営み、どのような付加価値を生み出すのか。利潤獲得のために他社とどのように競い、協力するのか。自社にしかないものは何であり、これから何ができるようになりたいのか。今はまだ存在しない新しい付加価値を生み出すにはどうしたらよいのか、について議論します。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	経営戦略に関する主要な理論を理解し、学んだ概念を企業や社会で起こっている諸問題にあてはめて分析できるようになること、さらには、社会実践において自らフレームワークを構築する力をつけることを目標とします。					
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	【授業計画】 各回は 5・6 限連続です。 第 1 回 われわれはどのような存在であるのか：事業の範囲と戦略ドメイン 第 2 回 利潤獲得の位置どり：ポジショニング・アプローチ（1） ファイブフォース、戦略ポジション、価格戦略、製品差別化 第 3 回 利潤獲得の位置どり：ポジショニング・アプローチ（2） 新規参入者の脅威、参入のタイミング、企業間のパワー関係、バリューチェーン 第 4 回 企業間のインタラクション：ゲーム・アプローチとエコシステム ゼロサムゲームと協調ゲーム、プレイヤーは誰か プラットフォーム戦略、エコシステム 第 5 回 われわれにしかないものは何か：資源アプローチ コアコンピタンス、模倣困難性 第 6 回 変革する力：動的能力アプローチ 組織能力、動的能力、組織学習、企業の革新 第 7 回 創造の戦略 創発、創造の場 第 8 回 期末課題発表会 事例研究のグループ発表、期末レポート（事例分析）の相談 【授業方法】 各回に講義のほか、ケース・文献討議、グループワークがあります。 【授業外学習】 ケース・文献討議の予習は必須です。 期末事例研究発表はグループ、期末レポートは個人で、計画的に準備をすすめて下さい。					
④テキスト・参考書等	ケース・文献討議用の教材は、授業開始前に配布します。参考文献は随時紹介します。					
⑤成績評価方法	授業参加（討議・ワーク）40%、期末グループ発表30%、期末レポート（個人）30%					
⑥特記事項 (他の授業科目との関連性)	オフィスアワーは特に設定しませんが、質問等がある場合は事前にメールでアポイントメントをとってください。メールアドレスは初回授業で告知します。					

授業科目名	M	経営戦略特別演習	授業番号	P009	単位数	2
担当教員	松田 千恵子		前期 I	水曜日	5 時限, 6 時限	
①授業方針・テーマ	本演習は、ケーススタディ方式によって進められる。企業の具体的な事例を通じて、企業経営と資本市場の間にある諸問題を経営者としての立場から考え、参加者間で討議をしながら理解を深めていく。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	経営戦略、財務戦略の知識を、実際の業務において活用できるようになることを目的とする。					
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	① 不連続な環境変化への対処-事業・財務・組織を統合して考える ② 企業分析と戦略評価の手法（１）-現状分析をどう行うか ③ 企業分析と戦略評価の手法（２）-市場進化の方向性と競合のメカニズム ④ 企業分析と戦略評価の手法（３）-競争優位性の所在と将来の方向性 ⑤ 成長戦略と資本政策-会社の値段は幾らなのか ⑥ 負債政策と信用リスクへの対処-その格付けは正しいか ⑦ グループ経営におけるコーポレートファイナンスの応用 ⑧ コーポレートファイナンスと企業統治・情報開示・企業の社会的責任 事前にテキストとレジュメを読んだうえで授業に参加のこと。					
④テキスト・参考書等	テキスト：松田千恵子『グループ経営入門 第三版』税務経理協会、2016 松田千恵子『コーポレートファイナンス実務の教科書』日本実業出版社、2016 その他のテキストや参考書は演習中に適宜指示する。また、各回にレジュメを配布する。					
⑤成績評価方法	演習中のレポートやプレゼンテーションの作成、演習への貢献度により評価する。					
⑥特記事項 (他の授業科目との関連性)	質問、連絡等がある場合にはcmatsuda@tmu.ac.jpにメールのこと。					

授業科目名	M	経営組織特論	授業番号	P015	単位数	2
担当教員	高尾 義明		前期	火曜日	5 時限	
①授業方針・テーマ	個人に還元できない組織の創発特性をよりよく理解するために、組織を巨視（マクロ）的な視座から捉えるマクロ組織論を中心に、組織についての理論を紹介することを通じて、経営と組織の関係についての考察を深めていきます。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	「組織の時代」である現代において組織に何らかのかたちで関わっていない人はいませんが、自らの経験にのみ依拠した持論だけで組織を捉えている人が少なくありません。そこで、本講義では、理論に基づいて組織の創発的側面について理解を深めるとともに、組織の有効性に影響を与える要因を分析するための知識の獲得を目標とします。					
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	第1回：イントロダクション 第2回：組織観の把握 第3回：合理的システムとしての官僚制 第4回：官僚制の逆機能と自生的システム 第5回：組織の構造とその設計 第6回：組織文化のマネジメント 第7回：組織アイデンティティ 第8回：組織的意思決定と（非）合理性 第9回：組織学習とそのジレンマ① 第10回：組織学習とそのジレンマ② 第11回：ナレッジマネジメント 第12回：組織間関係と学習 第13回：組織変動へのマクロ的視点① 第14回：組織変動へのマクロ的視点② 第15回：総括ディスカッション 【授業方法】 文献の発表、ディスカッション、グループワークを組み合わせ授業を行います。 【授業外学習】 毎回、リーディング・アサイメントを事前に読んで授業に臨んでください。また、毎回事前課題の提出を求めます。					
④テキスト・参考書等	各回のリーディング・アサイメントを事前に配布します。 参考書（授業の履修にあたって購入する必要はありませんが、適宜参照すると理解が深まると思います） 〔1〕 桑田耕太郎・田尾雅夫（2010）『組織論 補訂版』（有斐閣、定価2,100円） 〔2〕 金井壽宏（1999）『経営組織』（日本経済新聞社、定価860円）					
⑤成績評価方法	成績評価方法発表・発言などによる授業に対する積極的貢献（85％）および学期末レポート（15％）によって評価します（詳細は第1回に説明します）。					
⑥特記事項 （他の授業科目との関連性）	【オフィスアワー】 オフィスアワーは特に設定しませんが、直接質問したい場合は随時受付しますので、事前にメールでアポイントメントをとってください。 【連絡先】ytakao@tmu.ac.jp					

授業科目名	M	意思決定特論	授業番号	P033	単位数	2
担当教員	長瀬 勝彦		前期	金曜日	6 時限	
①授業方針・テーマ	人間の意思決定について、行動意思決定論に立脚して講ずる。意思決定とは物事を決めることである。学生が食堂で注文の料理を決めるような日常の意思決定もあれば、進学や就職、転職、結婚など人生の一大事の意思決定もある。また企業などの組織の中では、経営者をはじめとするすべての構成員が職務上のさまざまな意思決定を下している。この講義では、人間の意思決定が何に影響を受けてどのようなプロセスでおこなわれているかを議論する。 授業は一方向の講義ではなく受講生と対話をしながら進行するので、受講者は単に授業の内容をノートにとるだけでなく、積極的に考え発言することが期待される。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	人間の意思決定のありかたは、一般人が思い描いているものとはだいぶ異なっている。人間の意思決定にはさまざまな癖があり、それぞれに「〇〇ヒューリスティック」や「△△バイアス」といった名称が付いている。この講義では数多くのバイアスとヒューリスティックを議論するので、それらの意味内容を習得することを通じて、人間の意思決定について深く理解することがこの講義の目標である。					
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	以下が授業で取り上げる主な項目である。 ①「成功要因」の神話と現実 ② 意思決定の合理モデルとその限界 ③ 人間の意思決定プロセス ④ データの収集・分析のバイアス ⑤ 市場への参入の意思決定 ⑥ M & Aの意思決定 ⑦ 市場からの撤退の意思決定 ⑧ 事業売却の意思決定 ⑨ 利己心と公正感情 ⑩ 返報性 ⑪ コミットメントと一貫性 ⑫ 社会的証明 ⑬ 好意 ⑭ 権威 ⑮ 希少性 【授業外学習】 セッションごとの復習課題を解く。教科書や参考文献を読む。					
④テキスト・参考書等	項目①から⑨までの教科書は『意思決定のマネジメント』（長瀬勝彦 [著]、東洋経済新報社、2008年）である。ただし、①から⑥までは授業での気づき体験を重視するので、教科書は復習で使用することを推奨する。⑩以降の教科書は『影響力の武器 [第三版]：なぜ、人は動かされるのか』（ロバート・B・チャルディーニ [著]、社会行動研究会 [訳]、誠信書房、2014年）である（※授業開始の前に新版が出版された場合はそちらを使用する可能性がある）。参考文献は『あなたがお金で損をする本当の理由』（長瀬勝彦 [著]、日本経済新聞出版社）。その他、随時指示する。					
⑤成績評価方法	提出されたレポートや授業のディスカッションへの参加などが50%、期末試験が50%の比率で評価する。					
⑥特記事項 (他の授業科目との関連性)	特定の前提知識は前提としない。ただし人間の心理についての学術的な興味と、日常の知識に束縛されない論理的な思考力が求められる。 【オフィスアワー】 長瀬宛のメール（nagase@tmu.ac.jp）でのアポイントメントによる。					

授業科目名	M	テクノロジー・マネジメント特論	授業番号	P017	単位数	2
担当教員	松尾 隆		後期	土曜日	3 時限	
①授業方針・テーマ	技術は企業マネジメント、企業戦略の双方にとって、重要な資源であるとともに、企業行動に制約をもたらす。本講義では、そうした技術とマネジメント、戦略との関係を取り上げる。毎回の講義では、1，2本の論文を取り上げ、それについての発展的な議論を行う。そのため、事前にその回のテーマに即したレポートを提出してもらう。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	テクノロジー・マネジメントに関する基本的内容と今日的トピックを理解し、現実の企業行動の分析に適用することを目指す。					
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	① テクノロジーとマネジメント ② テクノロジーと戦略 ③ 技術のライフサイクル ④ 製品アーキテクチャ ⑤ イノベーターのジレンマ ⑥ ユーザー・イノベーション ⑦ 技術統合 ⑧ ゲートキーパー ⑨ 標準化と技術 ⑩ オープン・イノベーション ⑪ イノベーションと組織 ⑫～⑮ 発展的な内容を講義の進展に応じて扱う					
④テキスト・参考書等	特に教科書は指定せず、毎回、文献を配布する。多くは研究論文を取り上げる予定なので、基礎知識に不安がある場合は、延岡健太郎『MOT[技術経営] 入門』日本経済新聞社などを事前に読んでおくといい。					
⑤成績評価方法	毎回のレポートの内容と講義中の発言による					
⑥特記事項 (他の授業科目との関連性)	・ オフィスアワー：特にオフィスアワーは設けないが、事前にメールでアポイントをとってくれば、随時対応する。					

授業科目名	M	コーポレート・ファイナンス特論	授業番号	P005	単位数	2
担当教員	中岡 英隆		後期	月曜日	5 時限	
①授業方針・テーマ	企業のグローバル化が進み、日本企業においても国内外でのM&A戦略が経営上の最重要課題となっている。こうした企業の戦略的な投資や企業価値創造に関わる意思決定には、オプション理論を取り入れた最新の企業価値評価の手法が不可欠である。本講義では、伝統的なコーポレート・ファイナンスの基礎を概観した上で、会社法や契約、ビジネスモデルに織り込まれたオプションの仕組みを解き明かして、オプション理論を活用した投資戦略や株主価値、負債価値、資産価値、信用リスクの評価の手法を学ぶ。さらに、その実践的な応用を目指して、Excelを用いた演習として、事例に基づくオプション戦略の評価を行い、さらに、ケース・ワークにより企業の財務分析を行った上で、企業価値、負債コスト、デフォルト確率などを測定する演習を行う。また、最前線の企業活動のケースを読み解きながら、ファイナンスや経営資源、コーポレートガバナンスの視点から、マネジメントによる企業価値創造力やM&Aに対する市場の評価を理論的・実証的に分析し、M&Aの戦略・経済性について洞察を深める。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	伝統的なコーポレート・ファイナンスとコーポレート・ガバナンスやResource-Based Viewの経営戦略論などの視点を融合して、オプション理論を活用した投資戦略や株主価値、負債価値、資産価値、信用リスクの評価の手法を学ぶことにより、不確実性下における企業価値の評価やM&A戦略、マネジメントの価値創造力についての洞察力・実践力を高め、論理的思考力、総合的問題解決力を高める。さらに、ケース・ワークによる演習を通じて情報活用能力を高めるため、実際の企業買収や買収防衛策など最前線の企業活動にフォーカスして、自身でWebデータの収集や有価証券報告書の分析を行い、それらのデータとオプション評価モデルを使って投資戦略や企業価値、信用リスクの評価ができるようになることを目指す。また、マネジメントによる企業価値創造力やM&Aに対する市場の評価を理論的に分析し、実際のケースを通じてM&Aの戦略・経済性についての洞察を深めて、総合的問題解決力を高める。					
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	① M&Aの経済性と事業価値 ② 資本構成と配当政策 ③ 企業金融とガバナンス論 ④ M&Aと買収防衛策の事例研究 ⑤ M&A戦略と経営資源 ⑥ オプションと企業価値 ⑦ 離散時間モデルとリスク中立化法 ⑧ 離散時間モデルのExcel演習 ⑨ Mertonモデルと負債・資産の市場価値・信用リスク評価 ⑩ 演習「TBSの買収防衛策と株主価値・負債価値・信用リスク」 ⑪ 演習「買収対象企業の財務分析」(ホットなM&A事例を取り上げます) ⑫ 演習「市場データに基づく負債・資産価値・信用リスクの測定」 ⑬ 事例研究「日本の優秀企業の株主価値・負債価値・qレシオ」 ⑭ 事例研究「マネジメントの経営価値創造力とイベントスタディ」 ⑮ ファイナンス理論の現状と課題 [授業外学習] レジュメを読んでから授業に参加すること。演習問題は授業外に必ず取り組み、不明な点は授業中あるいはオフィスアワーに積極的に質問すること。					
④テキスト・参考書等	[テキスト] 毎回配布のレジュメによる。 [参考文献] [1] 中岡英隆 [2009]、「企業における資源開発事業の統合リスク評価」『ジャフィー・ジャーナル：ベイズ統計学とファイナンス』日本金融・証券計量・工学学会、179-205、朝倉書店。 [2] 中岡英隆 [2011]、「マネジメントの価値創造力とM&Aの評価」『ジャフィー・ジャーナル：バリュエーション』日本金融・証券計量・工学学会、114-133、朝倉書店。 [3] リチャード・ブリーリー、スチュワート・マイヤーズ、藤井真理子他訳 [2002]、『コーポレート・ファイナンス 上・下』日経BP社。 [4] 木島正明、中岡英隆、芝田隆志 [2008]、『リアルオプションと投資戦略』朝倉書店。 [5] ミシェル・クルーイ、ダン・ガライ、ロバート・マーク、三浦良造他訳 [2004]、『リスクマネジメント』共立出版。					
⑤成績評価方法	出席状況および授業への参加姿勢と課題発表・レポートにより評価する。					
⑥特記事項 (他の授業科目との関連性)	概ね文系レベルの数学とEXCELの知見を前提とする。 [オフィスアワー] 授業の前後あるいは事前にメールでアポイントを取得すること。					

授業科目名	M	マネジメント・サイエンス特論Ⅰ	授業番号	P018	単位数	2
担当教員	森口 聡子		前期	金曜日	5 時限	
①授業方針・テーマ	情報技術が支える経営活動において、各現場での短期的、オペレーショナルな問題に対する意思決定から、中長期的な戦略的レベルの課題への意思決定に及ぶまで、様々な意思決定が存在する。これらの意思決定では、科学的方法に基づく合理的な意思決定を導く経営科学（マネジメント・サイエンス）が重要な役割を果たしている。本講義では、経営科学の手法のうち、最適化技術を中心に紹介する。物流、在庫管理、SCM、スケジューリング、プロジェクト管理における意思決定での最適化（最小コスト、最大利益、不公平感最小化の計算など）を取り上げ、最適化技術による優位な意思決定の事例と、最適化アルゴリズムによる具体的な計算方法について説明する。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	経営科学における最適化技術とその周辺分野について、モデリング・定式化から、ソフトウェアによる求解について学習する。学習者はこの講義を通じて以下の知識や能力を習得することを目標とする。 1）最適化アルゴリズムによる優位な意思決定の事例（物流、スケジューリング、プロジェクト管理における意思決定での最適計算、最小コスト、最大利益など） 2）グラフ理論の基礎とグラフによる問題のモデル化 3）ネットワーク計画（最短路問題、最大流問題など） 経営戦略を科学的に決定することの理解を深め、実際の問題を数理モデルにモデル化し、求解する能力、オペレーションズ・リサーチの手法、解法の手間を評価する方法を身に着けることができる。数学・数理が実際の社会と繋がっていて有用なものであるという一般的な理解と感覚を身につけることができる。					
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	【授業計画・内容】 1. 講義ガイダンス、経営科学における最適化技術の位置づけ 2. 最適化問題、最適化アルゴリズムの分類と計算複雑性理論 3. 最適化問題による数理モデル化（1）線形計画問題 4. 最適化問題による数理モデル化（2）整数計画問題 5. 最適化問題を解くアルゴリズム 6. 最適化ソルバー（ソフトウェア） 7. グラフ理論の基礎 8. ネットワーク最適化（1）最短路問題と最短路問題を解くダイクストラ法 9. ネットワーク最適化（2）最大流問題と最大流問題を解くフロー増加法 10. ネットワーク最適化（3）最大流問題の応用例、プロジェクト管理におけるクリティカルパス法 11. ネットワーク最適化（4）最小費用流問題と最小費用流問題を解く負閉路消去法 12. 実問題のモデリングと求解プロセスの演習（1）（グループワークを予定するが、受講者数により個人演習となることもある） 13. 実問題のモデリングと求解プロセスの演習（2） 14. 実問題のモデリングと求解プロセスのディスカッション 15. まとめ 【授業方法】 プロジェクトを用いた講義形式を基本とするが、講義の間に簡単な例題や課題を示し、学生の理解を確認しながら講義を進める。講義の要点はWEBに資料の形で用意する。グループワークによるモデル化と最適化の演習も導入する。 【授業外学習】 WEB上に用意された資料を講義の前に目を通してテーマを把握する（予習）。講義の直後に再度、資料を読んで講義内容を確実に理解する（復習）。個人課題、グループワーク課題を課す。ディスカッション、プレゼンテーションの為に事前準備をしっかりと行ってくることを。					
④テキスト・参考書等	毎回配付するレジュメをテキストとして用いる。 【参考書】 [1] 松井泰子、根本俊男、宇野毅明『入門オペレーションズ・リサーチ』東海大学出版、2008 [2] 久保幹雄『組合せ最適化とアルゴリズム（インターネット時代の数学シリーズ）』共立出版、2000 [3] Ravindra K. Ahuja, Thomas L. Magnanti, James B. Orlin『Network Flows: Theory, Algorithms, and Applications』Prentice Hall、1993					
⑤成績評価方法	個人レポート、（グループワーク実施時）グループ成果物、プレゼンテーションおよび試験により評価する。					
⑥特記事項 （他の授業科目との関連性）	【前提知識】 高校程度の数学（数学Ⅰ、数学Ⅱ）を用いる。 この講義では、文科系出身の学生も履修できるように、初歩的な数学しか前提とせず、簡単な例を用いて出来るだけ平易な解説を行い、学生がこれらの手法の本質と最適化問題によるモデリングの有用性を理解できるよう心がける。 【オフィスアワー】 原則として、木曜12:10-13:00（メールでアポイントメントをとることが望ましい）。					

授業科目名	M	マーケティング・マネジメント特論	授業番号	P006	単位数	2
担当教員	水越 康介		前期Ⅱ	月曜日	5 時限, 6 時限	
①授業方針・テーマ	マーケティング・マネジメントは、顧客との関係の創造と維持をその目的とする、市場志向の活動である。本講義では、マーケティング・マネジメントとしてマーケティングの基本的な枠組みを理解するとともに、研究上の論点を探ることを目標とする。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	本講義では、マーケティングの基本的な枠組みの理解、および、マーケティング研究上の主要な論点を学ぶことができる。					
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	① オリエンテーション、およびグループ設定 ② 市場を作り出す企業活動・価値形成・実現のマネジメント ③ マーケティング資源の配分・事業の定義 ④ 競争構造の理解 ⑤ 取引関係の理解 ⑥ 消費者行動の理解 ⑦ プロセスとしての競争 ⑧ 産業のライフサイクル ⑨ チャネル資産のマネジメント ⑩ 顧客関係のマネジメント ⑪ 産業財マーケティング ⑫ サービスマーケティング ⑬ ブランドのマネジメント ⑭ ブランド・エクイティ ⑮ マーケティング理論史 ※講義内容は初回オリエンテーションの状況をもとに、変更の可能性はある。 【授業方法】 本講義では、事前グループワーク、講義内での報告・ディスカッション、および講義後に各自レポート作成・提出を一つのサイクルとする。 【授業外学習】 事前にテキストを読み、課題に答えるとともに、事後にレポートを作成・提出すること。					
④テキスト・参考書等	石井淳蔵・栗木契・嶋口充輝・余田拓郎（2013）『ゼミナール マーケティング入門 第2版』日本経済新聞社。 池尾恭一・青木幸弘・南知恵子・井上哲浩（2010）『マーケティング』有斐閣。 Kotler, Philip & Kevin Lane Keller, Marketing Management 13e, Pearson Education, Inc., 2009. Solomon, Michael R., Consumer Behavior: Buying, Having, and Being, 11e, Pearson Education, Inc., 2014.					
⑤成績評価方法	授業報告、およびレポート					
⑥特記事項 (他の授業科目との関連性)	オフィスアワーは、月曜日授業前とする。希望者は、授業中に提示するメールアドレスに一報し、予約をとること。					

授業科目名	M	マーケティング・サイエンス特論	授業番号	P004	単位数	2
担当教員	中山 厚穂		後期	火曜日	5 時限	
①授業方針・テーマ	現在の情報社会において、求められている能力の一つは、データの背後に存在している関係や傾向を読み解くための分析力です。特に、客観的なデータにもとづいた分析力がグローバルで情報があふれる社会において重要視されています。よって、本講義では、市場におけるマーケティング現象を理解するための代表的なモデルと、マーケティング意思決定に利用される方法論について学び、効果的な意思決定を行うための方法を身につけることを目指します。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	事例と例題通じて、どのように各手法がSTP戦略やマーケティング・ミックスなどを立案するために活用されるのかについて体験することを目標とします。また、講義を通じて、市場におけるマーケティング現象をどのように読み解くことができるのかということについての理解を深めるとともに、データ分析を通じて客観性をもって論証するための数学的な論証能力を身につけることを目標とします。					
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	第1回 ガイダンス：マーケティング・サイエンスとは 第2回 市場反応分析とは1（散布図と相関係数） 第3回 市場反応分析とは2（単回帰分析） 第4回 市場反応分析とは3（回帰分析） 第5回 市場反応分析とは2（非集計データの分析） 第6回 市場セグメンテーション 第7回 市場の発見のためのポジショニング分析 第8回 市場反応分析（回帰モデル）の実習 第9回 市場の発見と知覚マップ（因子分析）の実習 第10回 市場セグメンテーション（クラスター分析）の実習 第11回 新製品の普及（バスマデル）の実習 第12回 ブランドと属性の同時マップ（コレスポネンシ分析）の実習 第13回 マーケットバスケットとクロスセリング（アソシエーション分析）の実習 第14回 顧客の管理（RFM分析、分散分析、ロジスティック回帰分析）の実習 第15回 定性調査データの分析（潜在変数の構造分析）の実習 第8回以降の実習では、担当者を決め代表的なモデルの特徴などについての発表とフリーの統計ソフトウェアRを用いた演習と、分析結果についてのディスカッションを行う予定です。 【授業外学習】 講義での実習のための準備、実習課題、レポート課題を適宜設定する予定である。					
④テキスト・参考書等	【テキスト】 照井伸彦・佐藤忠彦「現代マーケティング・リサーチ-市場を読み解くデータ分析」有斐閣、2013。 【参考文献】 [1] 朝野熙彦「入門多変量解析の実際」、講談社サイエンティフィク、2000。 [2] 古川一郎・守口剛・阿部誠「マーケティング・サイエンス入門」有斐閣アルマ、2011。 [3] 池尾恭一・井上哲浩『戦略的データマイニング』、日経BP社、2008。 [4] 中村博他「マーケット・セグメンテーション 購買履歴データを用いた購買機会の発見」、白桃書房、2008。 [5] 豊田裕貴「ポジショニングの理論と実践」講談社、2013。					
⑤成績評価方法	講義への出席、発表の内容、討論への参加程度、研究レポートにより評価します。					
⑥特記事項 (他の授業科目との関連性)	【オフィスアワー】 毎週火曜日17:20～18:20、20:00～21:00をオフィスアワーに設定するので、質問等があれば事前にメールなどでアポイントメントをとるようにして下さい。これ以外の時間帯に担当教員に会いたい場合も同様に事前にメールでアポイントメントをとって下さい。またメールによる質問も随時受け付けます。 連絡先：atsuho@tmu.ac.jp 【前提知識】 履修にあたっては、高校レベルの数学と学部教養レベルの統計学についての基礎知識が前提知識として必要になります。					

授業科目名	M	企業経済学基礎特論	授業番号	P026	単位数	2
担当教員	芝田 隆志		後期	水曜日	5 時限	
①授業方針・テーマ	本講義では、ミクロ経済学の観点から、企業の経営活動について考える。本講義を通じて、ミクロ経済学における企業の利潤最大化問題において、仮定された強い前提条件を緩和し、その結果として生じる経済メカニズムについて概説する。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	●習得できる知識は、ビジネススクールで必要とされる経済学の知識である ●企業間の戦略的相互依存関係を考慮に入れた企業の戦略や意思決定方法などの考え方を習得する					
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	第1回 イントロダクション（経済学とは、ミクロ経済学とマクロ経済学） 第2－4回 消費者行動理論（効用最大化問題、需要関数、異時点間の最適消費問題） 第5－7回 生産者行動理論（利潤最大化、供給関数） 第8回 市場分析（市場需要関数、市場供給関数、部分均衡、一般均衡、余剰分析） 第9回 厚生経済学の基本定理（厚生経済学の第1命題、第2命題、税、政府介入） 第10-11回 市場の失敗1（外部性、公共財、自然独占） 第12-13回 不完全競争市場（売手独占、買手独占、双方独占、寡占、コミットメント、フォーク定理） 第14回 情報の非対称性（エージェンシー理論、逆選択、モラルハザード） 第15回 期末試験と解説 授業外学習 ●各講義に対する演習問題を自宅学習すること ●練習問題や宿題において需要関数や供給関数などをEXCELにて描写する演習を取り入れる。EXCELの基本操作については各自で自宅学習しておくこと。					
④テキスト・参考書等	テキスト：指定しない 参考書： 神取道宏、2014、ミクロ経済学の力、日本評論社 他の参考文献については講義中に指示する					
⑤成績評価方法	試験と宿題（平常点含む）による総合評価。期末試験70%、宿題および平常点30%					
⑥特記事項 （他の授業科目との関連性）	オフィスアワー 水曜 20:00-21:00（メールにて事前予約すること）					

授業科目名	M	戦略的ゲーム理論特論	授業番号	P010	単位数	2
担当教員	渡辺 隆裕		前期	火曜日	6 時限	
①授業方針・テーマ	日常のビジネスや政策決定の場に応用できる戦略的思考の技法としてゲーム理論を身につけることを目的とします。また他の学問分野（経済学・法と経済・社会学・政策科学・政治学）においてゲーム理論が用いられたときに、それを理解する事ができるようにゲーム理論の基礎を習得します。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	完備情報ゲーム（戦略形・展開形）の理論を理解する。 応用として、囚人のジレンマ、弱虫ゲーム、コミットメント戦略、信憑性のない脅し、オークション、メカニズムデザイン、交渉理論、を理解する。 複占競争とクールノー競争を学び、経営戦略につながる産業組織論の基本を理解する。					
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	初回も欠席しないように。 ①ガイダンス+ゲーム理論とは ②支配戦略と囚人のジレンマ ③最適反応戦略、ナッシュ均衡と混合戦略 ④ゼロ和ゲーム、さまざまなゲーム ⑤完全情報展開形ゲームとバックワードインダクション ⑥交渉と最後通牒、実験経済学とゲーム理論 ⑦展開形ゲームの一般的表現【理論】 ⑧弱支配戦略と非支配ナッシュ均衡、オークション 1 ⑨多段階のゲームと戦略的投票 ⑩割当の設計とメカニズムデザイン ⑪時間の割引と多段階交渉 ⑫繰り返しゲームと囚人のジレンマ ⑬クールノー競争と不完全競争の理論 ⑭クールノー競争と不完全競争の理論-その応用 15回目はまとめです。 授業外学習として、テキストの演習問題を課し、授業内で解説する。					
④テキスト・参考書等	テキスト：渡辺隆裕著「ゼミナール ゲーム理論入門」（日本経済新聞社）宿題などは、この中から出題されますので購入してください。 また講義内では、いくつかの資料を配布します。これにはkibacoを使います。 講義中のスライド：kibacoからダウンロードできるようにします。 参考書：「図解雑学ゲーム理論」（2004）渡辺隆裕（著）ナツメ社					
⑤成績評価方法	4 回ほどのレポートで評価する予定です。					
⑥特記事項 （他の授業科目との関連性）	オフィスアワーは特に設定しません。質問については事前にメールでアポイントメントをとって頂ければ対応します。また質問については、メールやkibacoでも受け付けます。					

授業科目名	M	経営分析特論	授業番号	P012	単位数	2
担当教員	村上 裕太郎		前期Ⅱ	水曜日	5 時限, 6 時限	
①授業方針・テーマ	この授業では、ビジネスパーソンに不可欠な会計の基礎知識および分析能力をケースメソッドにより養う。とくに、経営戦略・マーケティング・組織などの経営活動がどのように財務諸表にあらわれるか、また、財務諸表から企業の経営活動をいかに読み解くかに焦点をあてる。また、授業後半では、会計の契約支援機能に着目し、現実の事例から望ましい契約のありかたについて考察する。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	経営者に必要な会計リテラシーを習得することを目的とする。具体的には、経営管理プロセスと会計情報の関係性、財務比率分析、会計の契約支援機能、原価計算の基礎、などの知識を身につけることができる。					
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	【授業計画】 第1, 2回 『会計リテラシー（講義編）』（C：180） 会計の役割と財務三表の仕組み 第3, 4回 『会計リテラシー（分析編）』（G：90、C：90） 比例縮尺財務諸表による分析 第5, 6回 『吉野家とゼンショー』（G：90、C：90） 外食業界の経営戦略と財務諸表 第7, 8回 『テイクアンドグヴ・ニーズ』（G：90、C：90） 装置産業の経営戦略と財務諸表 第9, 10回 『カンザスシティ・ゼファーズ・ベースボールクラブ*（HBS）』（G：90、C：90） 会計の契約支援機能①（オーナーと選手の会計論争） 第11, 12回 『コンビニオーナーの憂鬱』（G：60、C：120） 会計の契約支援機能②（フランチャイズ契約とモラル・ハザード） 第13, 14回 『ブリジトン・インダストリーズ*（HBS）』（G：60、C：120） 管理会計の基礎（製造間接費の配賦とCVP分析） 第15回 『期末試験・解説』（C：90） ※Gはグループ・ディスカッション、Cはクラス・ディスカッションの時間をあらわす。HBSのケースについては各自購入し、それ以外のケースについては教員が事前に配布する。 ※HBS以外のケースは変更する可能性がある。変更の場合は、ケース配布の際に指示する。 【授業方法】 慶應型ケースメソッドにもとづき授業をおこなう。慶應型ケースメソッドは、1ケースにつき、約3時間の予習、約90分のグループ討議、約90分のクラス討議により構成される（グループ・クラスの配分はケースによって若干異なる）。詳しくは以下のURLを参照されたい。 http://www.kbs.keio.ac.jp/about/casemethod.html 【授業外学習】 2回目の授業より、事前課題が与えられるので、その設問に対する答えを準備すること。予習推奨時間は約3時間である。					
④テキスト・参考書等	テキスト：村上 裕太郎著『なぜ、会計嫌いのあいつが会社の数字に強くなった』（東洋経済新報社2016年）¥1,620 購入が必要なケース： ①『カンザスシティ・ゼファーズ・ベースボールクラブ 2006年』（HBS Case 2006年） http://www.casecenter.jp/ccj_user/case_detail.aspx?key=CCJB-HBS-12093-01 ②『ブリジトン・インダストリーズ：自動車部品加工工場』（HBS Case 1990年） http://www.casecenter.jp/ccj_user/case_detail.aspx?key=CCJB-HBS-10011-01					
⑤成績評価方法	期末試験50%、クラス貢献点50% クラス貢献点は、発言回数ではなく、発言内容によって加点する。					
⑥特記事項 (他の授業科目との関連性)	オフィスアワーは授業終了後とする。					

授業科目名	M	管理会計特論	授業番号	P045	単位数	2
担当教員	細海 昌一郎		後期	土曜日	3 時限	
①授業方針・テーマ	管理会計は企業内部の経営者に対して経営管理に必要な経済的情報を提供することを目的とした会計といえますが、その主要な役割は大きく2つに分けられます。1つは、合理的な経営上の意思決定を行えるようにする役割であり、もう1つは、意思決定されたことが達成されるようにコントロールする役割です。 本講義では、こうした意思決定や業績評価に有効な管理会計技法のうち代表的なものをとり上げ、数値例を用いて解説・検討します。具体的には、管理会計の基礎を概説したのち、CVP分析、予算管理、分権組織の業績評価、業務的意思決定、戦略的意思決定、財務情報分析などを取り上げ、その基礎と応用について解説・検討する予定です。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	本講義を履修することによって、受講者は企業活動を客観的な会計数値で分析・評価する基本的な能力を身に付け、企業活動の改善点や目標を明確することが期待されます。					
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	イントロダクション：講義内容の概略 ①管理会計の基礎 ②CVP分析（1）：利益計画とCVP分析 ③CVP分析（2）：原価分解 ④CVP分析（3）：固定費に関わる論点 ⑤CVP分析（4）：損益シミュレーションほか ⑥予算管理（1）：予算管理の基礎、固定予算と変動予算 ⑦予算管理（2）：予算差異分析、予算管理の行動科学的課題ほか ⑧分権組織の業績評価（1）：業績評価の基礎、事業部の業績評価指標（BSC等を含む）、内部振替価格 ⑨分権組織の業績評価（2）：EP(EVA)と業績評価、MVAについて ⑩業務的意思決定（1）：業務的意思決定の基礎、最適セールス・ミックス、LPとスループット会計 ⑪業務的意思決定（2）：在庫管理の基礎、経済的発注量（EOQ）とJIT ⑫戦略的意思決定（1）：戦略的意思決定の基礎、投資プロジェクトの評価方法 ⑬戦略的意思決定（2）：不確実性下の投資意思決定 ⑭財務情報分析（1）：企業価値評価法の基礎 ⑮財務情報分析（2）：企業価値評価法の応用 ※講義の内容・順序を一部変更することがあります。 授業外学習：毎回の授業後、講義レジュメと演習課題についてよく復習しておいてください。					
④テキスト・参考書等	・テキストは、特に指定しません（レジュメ配布）。 ・以下、参考文献を示します（購入する必要はありません）。 青木雅明『管理会計』同文館出版、2005。 石塚博司共著『意思決定の財務情報分析』国元書房、1985。 大塚宗春『意思決定会計講義ノート』税務経理協会、2008。 加藤勝康・豊島義一『Q&A管理会計入門』同文館出版、2003。 小林健吾『体系予算管理』東京経済情報出版、2003。 佐藤紘光・齋藤正章『改訂新版管理会計』放送大学教育振興会、2006。 知野雅彦・日高崇介『予算管理の進め方』日本経済新聞出版社、2007。 平岡・大野・井出・細海『原価計算・工業簿記演習第3版』創成社、2003。 門田安弘編著『管理会計レクチャー〔基礎編〕、〔上級編〕』税務経理協会、2008。 山根節『新版ビジネス・アカウンティング - MBAの会計管理 - 』中央経済社、2008。 Higgins, Robert C., Analysis for Financial Management, McGraw-Hill, Inc, 2003。 Horngren, C.T., G.Foster, S.M.Datar, Cost Accounting -A Managerial Emphasis, Prentice-Hall, 2006。 Horngren, C.T, G.L.Sundem, W.O.Stratton, Introduction to Management Accounting, Prentice-Hall, 2002。 Shim, Jae K., and Joel G.Siegel, Modern Cost Management & Analysis, Barron's Business Library, 2000。 Shim, Jae K., and Joel G.Siegel, Budgeting Basics and Beyond Second Edition, John Wiley & Sons, Inc, 2005。					
⑤成績評価方法	・講義参加度と演習課題に基づいて評価します。					
⑥特記事項 (他の授業科目との関連性)	・本講義では受講者の理解を深めるため、毎回、講義内容についてひと通り解説したのち、PCを用いた演習を行う予定です。 ・基本的な企業会計の知識と基本的なPCの能力を前提に行います。 ・PC演習用データを配布します。 ・オフィスアワー：原則として木曜日5時限目としますので、質問等があれば研究室（3-233）に来てください（事前に、下記の連絡先に連絡頂ければ幸いです）。 ・連絡先：hosomi@tmu.ac.jp					

授業科目名	M	財務会計特論	授業番号	P049	単位数	2
担当教員	野口 昌良		後期	水曜日	6 時限	
①授業方針・テーマ	優良企業（組織）の選別・序列化にあたっては、企業業績に関する情報を提供する公表財務諸表を中心に分析が行われる。開示された情報を正確に把握するためには、財務諸表の仕組みを十分に理解することが必要になる。この講義では、現代社会において財務諸表が果たす役割について考察し、その機能と構造を理解することを目指す。国際財務報告基準（International Financial Reporting Standards；IFRS）などとの比較を行い、わが国の会計（基準）をとりまく現状についても理解を深める。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	1. 企業業績に関する情報を提供する財務諸表の機能と構造を理解することができる。 2. 1. をベースにして財務諸表を作成・分析する能力を修得できる。 3. 1. および2.をベースにして日本の会計基準を取り巻く現状を理解することができる。					
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	【授業計画・内容】 ① ガイダンス ② 財政状態計算書 ③ 損益計算書および包括利益計算書 ④ キャッシュフロー計算書 ⑤ 連結財務諸表 ⑥ 金融商品会計 ⑦ 棚卸資産会計 ⑧ 中間試験 ⑨ 固定資産会計 ⑩ 退職給付会計 ⑪ 税効果会計 ⑫ 収益認識 ⑬ 企業結合会計 ⑭ 外貨換算会計 ⑮ 定期試験・解説 【授業方法】 講義を中心とした授業を実施するが、適宜ディスカッション（一部グループワークの形式も取り入れる予定）も実施して、学生の理解度を確認しながら、到達目標に必要な知識の修得に努める。講義は、概念等について説明を行った後に、演習問題を解くかたちでその計算方法の修得に努める。期央に中間試験を実施する。 【授業外学習】 事前配布するハンドアウトおよび演習問題その他資料の予習・復習が必要となる。					
④テキスト・参考書等	【テキスト】 教科書は指定しないが、e-learningシステムkibacoを通じて講義資料を配布するので、事前に学習しておくこと。 【参考書等】 桜井久勝『財務会計講義』（中央経済社） 伊藤邦雄『新・現代会計入門』（日本経済新聞出版社）					
⑤成績評価方法	基本的に定期試験のスコアに準拠して評価するが、適宜実施するディスカッションもクオリティに応じて評価する。 評価のウェイトは定期試験のスコアを70%、ディスカッションの内容を30%とする予定である。 定期試験は、到達目標に照らして、財務諸表の機能と構造に関する知識を通じて、財務諸表を作成・分析する能力を修得できているか否かを確認するために実施する。具体的には、財務諸表の作成・分析に必要な概念について説明を求める記述問題と、財務諸表の作成に必要な情報を収集・分析・加工することを求める総合計算問題が中心となる。					
⑥特記事項 (他の授業科目との関連性)	【他の授業科目との関連性】 初回の講義において事前（プレ）テストを実施する予定である。その結果に基づいて講義内容を多少とも変更することを予定しているので、さしあたっては特別な前提知識を必要としない。 【オフィスアワー】 水曜日の1時限目とするが、メールによる質問も受け付ける。					

授業科目名	M	証券投資特論	授業番号	P025	単位数	2
担当教員	坂巻 敏史		後期	月曜日	5 時限, 6 時限	
①授業方針・テーマ	本講義では、証券投資・資産運用に関する基本概念・理論の習得に加え、証券投資に関するリスク管理、ミクロ・マクロ経済分析などのより実践的な課題についても学習の対象とする。特に、ポートフォリオ投資のあり方、リスクリターン分析の枠組み、投資戦略、リスク指標などの項目を重点的に扱う。また、最近の動きにも触れ、より深い理解を促す。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	証券投資に関るる基礎的な概念やツールの理解、実践的な活用能力の向上を目指す。 特に、具体的な証券投資の場面において、リスクリターンのバランスをどのようにアプローチし決定するかに、役立つ知識や考え方の習得を重視する。					
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	本講義で取り上げる範囲は、先ず、証券投資理論の基礎、標準的な投資戦略の知識や分析の枠組みに触れる。加えて、発展的な話題として、金融リスク管理や最近注目されている投資戦略などの話題も扱う。講義の中では、全員参加のディスカッションも積極的に取り入れる予定である。また、具体的な数値例に基づく計算課題などの複数回のレポート提出を予定している。 各講義の主な内容は以下の通りである： ①証券投資のリターンとリスク（債券、株式） ②ポートフォリオと分散投資 ③平均分散モデル、ポートフォリオの最適化 ④-⑤資本資産評価モデル（CAPM）、効率的市場仮説、分離定理 ⑥-⑦裁定価格理論（APT）、マルチファクターモデル ⑧投資戦略（リスクプレミアム、ベータ、アルファ、アクティブ運用、インデックス運用） ⑨企業価値の尺度、投資対象分析 ⑩証券市場とマクロ経済分析 ⑪オプション・ディバティブズ、証券化 ⑫ファットテイル性とリスク尺度 ⑬-⑭リスクベースポートフォリオ、スマートベータ、高度なリスク管理、投資信託、ETF ⑮補論 次回の授業範囲を予習し、大まかで良いので専門用語の意味等を理解しておくこと。					
④テキスト・参考書等	(参考書) 小林・芹田「新・証券投資論Ⅰ」（日本経済新聞出版社）2009年第1版 伊藤・荻島・諏訪部「新・証券投資論Ⅱ」（日本経済新聞出版社）2009年第1版 ツヴィ・ボディ「インベストメント 上・下」（日本経済新聞出版社）2010年第8版 井出・高橋「ビジネスゼミナール 証券分析入門（ビジネス・ゼミナール）」（日本経済新聞出版社）2005年 その他、講義の内容に応じて、参考書を紹介します。					
⑤成績評価方法	講義中の議論への貢献・参加姿勢、課題・レポートの提出に基づく評価					
⑥特記事項 (他の授業科目との関連性)	証券金融分析の基礎の理解、初歩的な統計学・数学の理解があることが望ましい。 統計ソフトを用いた課題を行うことがある（具体的なツールについてはその都度指示する）。 オフィスアワーは特に設定しませんが、直接質問したい場合は随時受付しますので、授業前後のタイミングでアポイントメントを取って下さい。					

第 II 群 科 目

授業科目名	M	国際経営特論	授業番号	P052	単位数	2
担当教員	森本 博行		前期	土曜日	1 時限	
①授業方針・テーマ	・企業の国際経営について、基本的な知識や課題を企業事例を踏まえて修得する。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	・国際経営論分野の基礎的知識の修得 ・企業の国際経営の抱えた課題や問題の理解					
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	第1回 オリエンテーション：国際経営論が訴求するポイントとは何か 第2回 企業の国際経営の動機 第3回 発展途上国の産業政策と日本企業の戦略的行動 第4回 中国の経済政策と日本企業の戦略的行動 第5回 国際マーケティング 第6回 国際経営戦略 第7回 国際経営組織 第8回 海外子会社経営 第9回 技術移転と海外生産 第10回 サムスン電子の企業発展と国際化 第11回 BOP市場と企業戦略 第12回 グローバル企業提携とグローバルM&A 第13回 研究開発の国際化 第14回 日本における外資系企業の経営 第15回 期末試験 授業方法 ・講義を主に、提示した課題についてディスカッションを行う。 授業外学習 ・指定した参考書の関連する項目について事前に読んで、授業に参加すること。					
④テキスト・参考書等	MEポーター編著『グローバル企業の競争戦略』ダイヤモンド社 CA. バートレット『地球市場時代の企業戦略：トランスナショナル・マネジメントの構築』日本経済新聞社 G. ジョーンズ著『国際経営講義：多国籍企業とグローバル資本主義』有斐閣 G. ジョーンズ著『多国籍企業の変革と伝統』文眞堂 M. ヒット他著『戦略経営論：競争力とグローバリゼーション』センゲージ・ラーニング 天野論文『東アジアの国際分業と日本企業』有斐閣 吉原英樹著『国際経営（第4版）』有斐閣 吉原英樹、白木三秀、新宅純二郎、浅川和宏編著『ケースに学ぶ国際経営』有斐閣 浅川和宏著『グローバル経営入門』有斐閣 新宅純二郎、天野論文ほか『新興国市場戦略』有斐閣 安保哲夫『アメリカにおける日本の生産システム：現地工場の「適用」と「適応」』東洋経済新報社					
⑤成績評価方法	期末試験（60％）、授業中の発言（40％） ・期末試験については、到達目標に基づき、国際経営論の基礎的知識や企業の国際経営の課題についての理解度を評価する。 ・授業中の発言については、課題についての発言内容について評価する。					
⑥特記事項 (他の授業科目との関連性)	他の授業科目との関連性 ・特になし オフィスアワー ・土曜日12：30～13：00					

授業科目名	M	ヒューマン・リソース・マネジメント特論	授業番号	P044	単位数	2
担当教員	西村 孝史		前期 I	月曜日	5 時限, 6 時限	
①授業方針・テーマ	この授業では、日本の人事に欠けていることが多い戦略人材マネジメントの考え方を【2コマ続き】で身につけることを重視します。戦略人材マネジメントとは、企業の競争力を高め、企業業績に連結する経営活動の一環として人材マネジメントを捉える視点です。 また、この授業では、理論的にも、実務的にも戦略人材マネジメントの視座に基づいて人事管理システムを考察できるように、理論的な学習のほかにもケース分析、グループ討議・発表、個人のフィールドリサーチなど、多様な方法を用いて分析手法を磨いていくことも重視します。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	人材マネジメント論の基礎的な概念・枠組み・理論を学習し、それらの概念や枠組みを実際の企業や組織に応用することで、最終的には、人事管理システムの分析・評価・デザインができるようになることを目的とします。 また、他社の「ベストプラクティス」を探ることで満足してしまうのではなく、自らの会社で何が起きているのかを推論する力を養うことを目的とします。					
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	<変更可能性があります> 1-1 授業の説明と参加者の確認：人材マネジメントとは何か？ 1-2 SHRM論：レクチャーとディスカッション 2-1 ケース分析（1） 2-2 ケース分析（1）続き 3-1 インセンティブシステムと人事システムの基本思想 3-2 人材の評価・公正性 4-1 ケース分析（2） 4-2 ケース分析（2）続き 5-1 能力開発・経営者人材（BU長）の育成 5-2 マネージャの役割・職場マネジメント 6-1 ケース分析（3） 6-2 ケース分析（3）続き 7-1 人事部の役割 7-2 人材ポートフォリオ 8-1 多様な人材と働き方、働きがいのある会社 8-2 ゲストスピーカー※どこに回に入れるかは未定 授業外の学習として、毎回指定されているリーディングスを読み込んでおくこと。また、ケースについては事前にレポートを作成すること。					
④テキスト・参考書等	1）kibaco上に配布するリーディングパッケージ（詳しくは初回に説明：kibacoに掲載） 2）ケース（個人で購入をして下さい） <参考書> 守島基博（2004）『人材マネジメント入門』日本経済新聞社。					
⑤成績評価方法	1）フィールドワークに基づく個人レポート（40%） 2）ケース分析に基づいた個人レポート、3つ（全部で45%：内訳①15%、②15%、③15%） 3）クラス討論への参加（15%）					
⑥特記事項 （他の授業科目との関連性）	1. 授業で扱うケースは、著作権が保護された上で販売されているため、各自でBookparkから購入をしてください。 http://www.bookpark.ne.jp/about/partner.asp 2. オフィスアワーは、水曜日12：00-14：30で研究室（3号館305号室）ですが、訪問の際は事前にメールにて教員にアポイントを取ること					

授業科目名	M	ベンチャービジネス特論	授業番号	P056	単位数	2
担当教員	高橋 勅徳		前期	土曜日	2 時限	
①授業方針・テーマ	ベンチャービジネスに関する研究は、この10年の間に、単に新奇性の高い事例を記述する研究から、明確な理論的フレームワークと調査方法論を備えた研究領域として、急速に発展しています。そこには、制度派組織論をはじめとした組織論の最先端の議論や、社会構成主義、言説分析、アクターネットワークセオリーといった方法論的展開のエッセンスが含まれています。 そこで本講義では、近年のベンチャービジネスに関する最先端の研究成果を踏まえた上で、起業やイノベーションに関する研究論文を作成する上で必要な、学説史と方法論について、必読文献の精読を通じて学んでいくことにします。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	この講義では、ベンチャービジネスをテーマに論文を作成する上で必要な、理論と調査方法論を身につけることを目標とする					
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	授業計画・内容・方法 この講義では、企業家研究の各議論について、下記のテーマに基づいた文献の精読を行い、講義形式でレクチャーを行う。 ①企業家とは何か？ シュムペーターの企業家モデル ②企業家とネットワーク ③企業家と正当化 ④企業家と法規制 ⑤企業家研究の進化論的アプローチ ⑥企業家と地域集積 ⑦企業家と組織① 社内ベンチャー ⑧企業家と組織② ベンチャー企業の管理 ⑨企業家のと業界標準 ⑩制度派組織論における企業家概念 ⑪2000年代の企業家研究① ソーシャルイノベーション ⑫2000年代の企業家研究② まちづくり論 ⑬2000年代の企業家研究③ 農業ベンチャー ⑭2000年代の企業家研究④ 企業家的管理 ⑮まとめ：企業家研究のフロンティア 授業外学習 各回の課題テキストを熟読の上、当日の講義に臨むこと。					
④テキスト・参考書等	桑田耕太郎・松嶋登・高橋勅徳（編）『制度的企業家』有斐閣 講義に際して必要なテキスト・参考書については、その都度指定する。					
⑤成績評価方法	出席（10%）、授業への参加（30%）および期末課題（60%）にもとづいて評価を行う。					
⑥特記事項 (他の授業科目との関連性)	特になし。 オフィスアワーについては、メール（misanori@tmu.ac.jp）でスケジュールを調整の上、実施する。					

授業科目名	M	ビジネスイノベーション特別演習	授業番号	P039	単位数	2
担当教員	高橋 勅徳		後期	土曜日	1 時限, 2 時限	
①授業方針・テーマ	これまでビジネスイノベーションは、まったく新しいテクノロジーやアイデアの下でイノベーションを主導する、特殊なパーソナリティの持ち主たる企業家と共に語られてきました。確かに、巷間に溢れる雑誌・新聞・TVからの情報を見聞きする限り、ビジネスイノベーションとはそのような現象として理解できるかもしれません。 しかしながら、そのように現象を捉えてしまうと、ベンチャービジネスとは通常のビジネス実践から乖離した、特殊な存在となります。しかし、イノベーションを実現するためには、単なるテクノロジー／アイデアや企業家の有無という問題ではなく、顧客、同業他社、関係会社、銀行など様々な主体と関係を取り結び、自社にとって有利な方向へと導いていく社会関係のマネジメントが求められます。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	この講義では、ベンチャー企業の創出、新技術／サービスの普及、既存企業（行政組織を含む）のイノベーションのプラクティカルな知識を、具体的なケーススタディに基づくディスカッションを通じて通じて学びます。					
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	授業計画・内容・方法 この講義は隔週2コマ連続で開講します。1コマ目に検討するベンチャー企業についてのケースディスカッションを行い、2コマ目にケースに取り上げた企業経営者による講演とディスカッションを実施します。本年度の出講予定者については10月中旬にアナウンスします。 第一回 ガイダンス 第二回 ケースディスカッション① 第三回 ケースディスカッション② 第四回 ケースディスカッション③ 第五回 ケースディスカッション④ 第六回 ケースディスカッション⑤ 第七回 期末グループワーク① 第八回 期末グループワーク＋報告会 授業外学習 講義に先立って配布するケーススタディを熟読の上、出講企業の事前調査を行い質問項目をまとめておくこと。					
④テキスト・参考書等	テキスト・参考書については、必要に応じてその都度指定する。					
⑤成績評価方法	ディスカッションへの参加（20%）および議論への貢献度（20%）、期末グループワーク（40%）による。オフィスアワーについては、メール（misanori@tmu.ac.jp）でスケジュール調整の上、適宜実施する。					
⑥特記事項 （他の授業科目との関連性）	原則隔週で2コマ連続の、変則開催とします。					

授業科目名	M	マネジメント・サイエンス特論Ⅱ	授業番号	P034	単位数	2
担当教員	山下 英明		前期	水曜日	5 時限	
①授業方針・テーマ	経営科学は、経営活動において生じる種々の問題に対する合理的な意思決定をするために科学的方法を提供する学問領域である。この講義では、経営科学の手法のうち、不確実性を伴う確率モデルに対し、確率論を用いた理論解析や、乱数を用いて数値実験を行うモンテカルロ・シミュレーションについて紹介する。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	確率モデルに対する理論的解析とモンテカルロ・シミュレーションの方法について本質的に理解する。 経営戦略を科学的に決定することの理解を深め、実際の問題を確率モデルにモデル化し、システムの分析を行う能力を身に着ける。 論理的思考力、総合的問題思考力、コミュニケーション能力を育成する。					
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	【授業計画・内容】【授業方法】 第1回～第11回 講義中心の授業 授業時間内では、教員が確率モデルの理論解析やシミュレーションの方法について説明し、講義内容に関する課題について、グループで検討し、解答を導く。授業時間外では、授業で学習した方法についての演習問題を解き、次の授業において解答を確認し、理解を深める。 1. イントロダクション、確率モデル 2. 確率変数と離散的な確率分布 3. 連続的な確率分布と中心極限定理 4. 乱数の性質と生成 5. 在庫管理問題と経済的発注量 6. 定期発注方式と発注点方式 7. 需要が変動する在庫管理問題のシミュレーション 8. 待ち行列モデルのシミュレーション 9. 待ち行列モデルとリトルの公式 10. 電車の待ち時間 11. M/M/1 待ち行列の解析 第12回～第15回 学生発表中心の授業 参考書にある実際のシステムの解析例について発表し、討論する。 第15回 身近な問題をモデル化し、シミュレーションを行い、結果を発表する。 【自宅学習】 毎回、授業で学習した解法についての演習問題を課す。このうち、2週間に1度程度提出を義務づける。 参考書にある実際のシステムの解析例について発表する準備を行う。 身近な問題をモデル化し、シミュレーションを行い、発表する準備を行う。					
④テキスト・参考書等	テキストは使用しない。 参考書：塩田茂雄他『待ち行列理論の基礎と応用』共立出版（2014） 尾崎敏治『確率モデル入門』朝倉書店（1996） 森雅夫、宮沢政清他『オペレーションズ・リサーチⅡ』朝倉書店（1989） 森雅夫、松井知己『オペレーションズ・リサーチ』朝倉書店（2004） 高橋勝彦他『シミュレーション工学』朝倉書店 2007. 森戸晋、逆瀬川浩孝『システムシミュレーション』朝倉書店 2000. 荒木勉『Excelで学ぶシミュレーション』実教出版 2000. 尾崎俊治『確率モデル入門』朝倉書店 1996. L. クラインロック（手塚慶一他訳）『待ち行列システム理論（上下）』マグローヒル好学社 1978. 豊田秀樹『マルコフ連鎖モンテカルロ法』朝倉書店 2008. 牧本直樹『ビジネスへの確率モデルアプローチ』朝倉書店 2006. 宮沢政清、『確率と確率過程』近代科学社 1993.					
⑤成績評価方法	数回おこなう演習問題、解析例の発表、平常の理解度によって専門的知識と論理的思考力を評価し、各自モデルのシミュレーションの発表により総合的問題思考力、コミュニケーション能力を評価する。					
⑥特記事項 （他の授業科目との関連性）	この講義は、高校、大学初等程度の数学を用いることもあるが、簡単な例を用いて出来るだけ平易な解説を行う。 授業内容の質問については、まず質問者がメールで教員に連絡し、必要があれば教員が面談の日時を質問者と相談の上設定する方式をとる。メールアドレス等、詳しくは初回の授業において説明する。					

授業科目名	M	マーケティング・サイエンス特別演習	授業番号	P031	単位数	2
担当教員	森 治憲		前期	土曜日	2 時限	
①授業方針・テーマ	この授業ではマーケティングにおけるデータ分析で必要とされる統計手法を学習する。取り上げる内容は基本的な推測統計学、ベイズ統計学、多変量解析、テキスト・マイニングなどである。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	推測統計学と多変量解析。こうした手法を現実の問題に応用する能力。					
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	授業計画 取り上げる手法は受講者と相談して決める。 授業方法 受講者による発表と講義を交互に行う演習形式で授業を進める。 授業外学習 授業で学習した計算式を検算するなど、毎回の復習が不可欠です。					
④テキスト・参考書等	授業中に指示する。					
⑤成績評価方法	発表内容や議論への参加など、毎回の活動状況に基づいて評価します。					
⑥特記事項 (他の授業科目との関連性)	この授業は修士論文で統計分析を必要とする学生を想定している。土曜日 3 時限をオフィスアワーとする。					

授業科目名	M	経営数理特論	授業番号	P023	単位数	2
担当教員	室田 一雄		後期	火曜日	6 時限	
①授業方針・テーマ	機械学習の数理的な側面に重点をおいて概説する。講義では基本的にテキストに沿って説明するが、テキストに含まれていない重要な話題であるサポートベクターマシンについても詳しく講義する。機械学習では、統計学や最適化の数学が多用されるので、それらについて、適宜、基礎的なことを整理して呈示する。また、最適化ソフトウェアの利用法についての基礎事項を説明する。数式のもつ本質的な意味をできるだけ図や言葉で伝えるようにし、今後の研究活動や実務において、機械学習の考え方が活かせるような形を目指す。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	科学的方法論として近年進展の著しい機械学習について、その枠組みと考え方を理解し、さらに機械学習の基礎を成す数理的基礎を理解する。最適化ソフトウェアを使うための基礎的な技術を習得する。それによって、研究活動や実務における数理的解析力と問題解決力を習得する。					
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	【授業計画・内容】 1. ガイダンス、機械学習へのイントロダクション 2. 最小2乗法（線形回帰、正規方程式） 3. 機械学習の基礎概念（汎化能力、過学習、交差確認、正則化） 4. 確率の基礎（確率分布、条件付き確率、期待値、正規分布） 5. 最尤推定法（推定量、一致性、不偏性、勾配法） 6. パーセプトロン（分類、オンライン学習、確率勾配法） 7. 最適化の基礎（凸計画、双対問題） 8. サポートベクターマシーン（1）：定式化 9. サポートベクターマシーン（2）：カーネル法 10. ロジスティック回帰（学習モデルの評価、ROC曲線、AUC） 11. k平均法（クラスタリング、教師なし学習） 12. EMアルゴリズム（混合分布） 13. ベイズ推定（ベイズの定理、事前分布、事後分布） 14. 機械学習の最近のトピック 15. 演習について討論と講評 【授業方法】 テキストの要点をまとめたスライドによる講義形式を基本とするが、講義の間に簡単な例題や課題を示し、学生の理解を確認しながら講義を進める。テキストに含まれない内容については、講義資料を用意する。また、発展的な話題を扱った資料をWEB上に用意し、自主的な学習の手助けとする。 【授業外学習】 講義の前にテキストに目を通してテーマを把握する（予習）。講義の直後に、テキストと資料を読んで講義内容を確実に理解する（復習）。各自の興味に応じて、自主的に、WEB上に用意された資料を利用して、発展的な内容を理解する。授業の内容に関連して出題される課題に取り組み、レポートを提出する。					
④テキスト・参考書等	【テキスト】 ・中井悦司：ITエンジニアのための 機械学習理論入門、技術評論社、2015. 【機械学習の参考書】 ・中川裕志：機械学習、丸善出版、2015. ・竹内一郎、烏山昌幸：サポートベクトルマシン、講談社、2015. ・C. M. ビショップ著、元田浩他訳：パターン認識と機械学習（上、下）、丸善出版、2012. 【統計学の参考書】 ・杉山将：機械学習のための確率と統計、講談社、2015. 【最適化の参考書】 ・田村明久、村松正和：最適化法、共立出版、2002. ・藤澤克樹、後藤順哉、安井雄一郎：Excelで学ぶOR、オーム社、2011. ・S. Boyd and L. Vandenberghe: Convex Optimization, Cambridge University Press, 2004.					
⑤成績評価方法	出席状況とレポート課題により評価する。					
⑥特記事項 (他の授業科目との関連性)	【前提知識】 統計学と最適化理論の基礎事項を一通り習得していることが望ましい。 【オフィスアワー】 原則として木曜5限（メールでアポイントメントをとることが望ましい）。					

授業科目名	M	ロジカル・シンキング特別演習	授業番号	P030	単位数	2
担当教員	長瀬 勝彦		後期	木曜日	5 時限, 6 時限	
①授業方針・テーマ	ビジネスにおいては、論理的・抽象的な思考が絶対に必要である。ところが日本のビジネスパーソンは自分の所属する企業や業界のローカルな知識と思考パターンにどっぷりと浸かってしまって、それがあたかもユニバーサルであるかのように思いこみ独りよがりになってしまうことが多い。この演習の第一の目的は、さまざまな論理問題を解きながら論理的な思考力を磨き上げることにある。 ビジネスについて本質的な思考をめぐらすためには、また世界のビジネスパーソンと渡り合うためには、幅広く深い教養が必要とされる。教養人として当然に知っておくべき事項や、信じていてはいけない誤った知識がある。それらについて一通り学んでユニバーサルな教養を身につけることが第二の目的である。 この演習ではビジネスの事例は原則として取り上げない。この演習が目指すのは高度専門職業人が身につけるべき教養としてのロジカルシンキングであり、抽象的、論理的思考の基礎的な訓練をおこなうものである。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	ユニバーサルな教養としての論理的思考力と知識を培う。					
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	以下の内容を予定している。受講生のレベルと関心をみながら、必要に応じて組み替える可能性がある。項目の番号と授業の回数は一致しない。 ① ロジカルシンキングの基礎 ② 因果関係の推定（１） ③ 因果関係の推定（２） ④ 経済学の論理思考（１） ⑤ 経済学の論理思考（２） ⑥ 科学と実験の論理思考（１） ⑦ 科学と実験の論理思考（２） ⑧ 科学と実験の論理思考（３） ⑨ 疑似科学と論理思考（１） ⑩ 疑似科学と論理思考（２） ⑪ 哲学・倫理学と論理思考（１） ⑫ 哲学・倫理学と論理思考（２） ⑬ 論理パズル（１） ⑭ 論理パズル（２） ⑮ まとめ 【授業外学習】 セッションごとの復習課題を解く。教科書や参考文献を読む。					
④テキスト・参考書等	教科書は使用しない。参考書は随時案内する。					
⑤成績評価方法	提出されたレポートや授業のディスカッションへの参加などが50%、期末試験が50%の比率で評価する。					
⑥特記事項 (他の授業科目との関連性)	必須ではないが、意思決定特論を受講済みであることが望ましい。 【オフィスアワー】 長瀬宛のメール（nagase@tmu.ac.jp）でのアポイントメントによる。					

授業科目名	M	ロジカル・ライティングⅠ	授業番号	P024	単位数	2
担当教員	照屋 華子		前期	木曜日	5 時限, 6 時限	
①授業方針・テーマ	この授業では、ロジカル・ライティング—論理的に、分かりやすく書くこと—の基本手法を「準備・組み立て・表現」の3フェーズに体系化して学びます。 重要な事柄ほど文書化が求められるビジネスの実務において、ロジカル・ライティングは必須科目ともいえるものです。 また、組織のリーダーには、効率的・効果的な情報伝達や意思決定のためにロジカル・ライティングを組織に浸透させていくという視点も必要です。 ロジカル・ライティングはトレーニングによって習得できる「技術」です。授業では、実践的な演習の反復を通してトレーニングに取り組みます。 ご自身のビジネス・ライティング力を磨きたい方はもちろん、組織としてのスキルアップに関心のある方、研究活動のためのライティング力向上を図りたい方の参加も歓迎します。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	1. ロジカル・ライティングの基本手法を体系的に理解し、その使い方を習得します。 ・コミュニケーションの準備： ビジネス文書の基本の型、またそれを効率的に書くために必要な準備を理解する。 ・メッセージの組み立て： ロジカル・シンキングをベースにしたメッセージ構成法を理解する。この構成法は口頭説明や英語のメッセージ構成にも活用できる。 ・メッセージの表現： 組み立てたメッセージを速く正確に読みとってもらえるための表現方法を、記述スタイルと日本語表現の両面から学ぶ。ビジネス文書で特に重要な、組み立てを視覚化する記述方法にフォーカスする。 2. 自分のライティングの強化点を具体的に見出し、それを意識して日々の文書作成に取り組めるようになることを目指す。					
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	<テーマ> ①オリエンテーションとメッセージ組み立ての準備 ・講義のねらいとロジカル・ライティングの全体像 ・コミュニケーションの仕組みとメッセージの基本の型 ・コミュニケーションの準備として確認すべき2つの事柄 ②メッセージの組み立て（1）「本論—思考の整理」 ・本論の要素 ・グループ化とMECE ・So What?/Why So? ③メッセージの組み立て（2）「本論—論理構成」 ・論理の基本構造と並列型・解説型 ・要旨の要素、および結論が充足すべき要件 ・論理構成の手順 ④メッセージの表現（1）「視覚化記述スタイル」 ・文書の心臓部とWhy So?の流れ ・見て分かるように表現するためのテクニック ⑤メッセージの組み立て（3）「導入部」 ・文書の導入部の役割 ・導入部に必要な要素 ⑥メッセージの表現（2）「日本語表現」 ・基本動作 ・具体性・簡潔さ・論理性を支える日本語表現 ⑦～⑧総合的な演習とまとめ ※ 授業の進捗状況によって、予定変更もあり得ます。 <授業方法> 各回、講義で解説した内容を、演習で確認・実践していきます。 演習は基本的に個人ワークで取り組みますが、グループ・クラス討議も組み合わせます。 <授業外学習> ・各回、テキストの該当箇所を事前リーディングして参加していただきます。 ・該当箇所は初回に指定します。 ・期末課外とは別に、理解確認のための課題を2回ないしは3回出します。 ・授業の進行によって、演習の一部を次回までの宿題にすることもあり得ます。					
④テキスト・参考書等	テキスト：照屋華子著『ロジカル・ライティング』東洋経済新報社、および配布資料 参考書： 照屋華子・岡田恵子著『ロジカル・シンキング』東洋経済新報社 その他、必要に応じて指定します。					
⑤成績評価方法	授業への参加・貢献を30%、課題・期末課題の成績を70%の割合で評価します。 ・参加・貢献は、授業に出席したうえで、演習のアウトプットのクラスでの共有や討議に積極的に参加したかどうかを評価します。 ・課題・期末課題は、いずれも文書作成もしくはメッセージの構成です。 授業で取り上げた構成・表現のポイントが反映されているかどうかを評価します。					
⑥特記事項 (他の授業科目との関連性)	興味があればどなたでも履修できます。 オフィスアワー：授業後の時間帯とします。 連絡先：初回授業時にメールアドレスをお知らせします。					

授業科目名	M	ロジカル・ライティングⅡ	授業番号	P027	単位数	2
担当教員	照屋 華子		夏季集中	別途案内		
①授業方針・テーマ	この授業は、ロジカル・ライティング―論理的に、分かりやすく書くこと―の実践コースです。授業では、初回に「ロジカル・ライティング」の基本手法を概説します。2回目以降の各回では、ビジネス・パーソンが書く頻度が高い、異なるタイプの文書を取り上げ、タイプ別に特に重要な組み立て・表現のポイントについて理解を深めます。授業は演習中心に進め、そのアウトプットをクラスで共有することによって、相互からの学びも重視して進めます。「ロジカル・ライティング」の実践力を磨きたい方の参加を期待します。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	1. パワーポイント形式の資料の要旨、報告書、提案書、メール・レター、記事・論文を取り上げ、それぞれについて3点を学びます。 ・基本の型とは ・基本の型を作るためには、ロジカル・ライティングの基本手法の特に何が重要か ・基本手法以外に、どのような視点を加えるとよいか 2. ドラフトを内容・構成、および表現の両面で推敲するセルフ・エディティングの手順とチェック・ポイントを学びます。3. 部下・後輩のライティングに改善点・アドバイスを提供する際の着眼点を理解します。					
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	<テーマ> ①オリエンテーションと基本手法の概説 ・講義のねらいと全体像 ・ロジカル・ライティングの基本手法 ②パワーポイント資料の要旨の作成 ・メッセージが確実に伝わるための4つのポイント ・要旨作成のステップと勘所 ③報告書の作成（ワード形式） ・論理パターン組み立ての手順と勘所 ・組み立てを視覚化する記述スタイルの要点 提案書の作成（ワード形式・パワーポイント形式） ・空・雨・傘のストーリー構成とGoverning Thought ・構成上の勘所 ・導入部の要点 ④ビジネスメールの作成 ・ビジネスメールの基本の型 ・メッセージが速く伝わる「見て分かる」メールの要件～メール作成によるロジカル・ライティングの鍛え方 ・好感度の高い日本語表現 ⑤記事・論文の作成 ・汎用性の高い構成と構成上の要点 ・段落記述スタイルの要点 ・接続表現の使い方 ⑥セルフ・エディティング ・ドラフトをより良くするためのセルフ・エディティングの全体像 ・構成のエディティングの要点 ・表現のエディティングの要点 ※ 授業の進捗状況によって、予定変更もあり得ます。 <授業方法> 各回、講義で解説した内容を、演習で確認・実践していきます。 演習は基本的に個人ワークで取り組みますが、グループ・クラス討議も組み合わせます。 <授業外学習> ・履修する方には、授業で用いる一部資料を事前リーディングしていただきます。 ・最終課題とは別に、前半3回が終了した時点と、後半3回が終了した時点で理解確認のための課題を出します。 ・授業の進行によって、演習の一部を次回までの宿題にすることもあり得ます。					
④テキスト・参考書等	テキスト：照屋華子著『ロジカル・ライティング』東洋経済新報社、および配布資料 参考書： [1] 照屋華子・岡田恵子著『ロジカル・シンキング』東洋経済新報社 [2] 木下是雄著『理科系の作文技術』中公新書 [3] 野矢茂樹著『論理トレーニング』産業図書 [4] 中村明著『日本語 語感の辞典』岩波書店 [5] 菊池康人『敬語』講談社学術文庫 その他、必要に応じて指定します。					
⑤成績評価方法	授業への参加・貢献を30%、課題・最終課題の成績を70%の割合で評価します。 ・参加・貢献は、授業に出席したうえで、演習のアウトプットのクラスでの共有や討議に積極的に参加したかどうかを評価します。 ・課題2つと最終課題は、いずれも文書（A41-2枚程度）作成です。授業で取り上げた構成・表現のポイントが反映されているかどうかを評価します。					
⑥特記事項 (他の授業科目との関連性)	履修にあたって前提知識は必要ありません。 ただし、「ロジカル・ライティングⅠ」を未修の場合は、テキスト『ロジカル・ライティング』を通読してご参加下さい。 オフィスアワー：授業後の時間帯とします。 連絡先：初回授業時にメールアドレスをお知らせします。					

授業科目名	M	経営学演習（グループ研究Ⅰ）	授業番号	P061	単位数	2
担当教員	オムニバス		前期Ⅱ	土曜日	3 時限, 4 時限	
①授業方針・テーマ	経営学の多様なアプローチを一望し、研究法の基礎を学ぶ。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	「経営組織・HRM・意思決定」、「経営戦略」、「マーケティング」の各分野について、研究法の基礎を習得する。					
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	「経営組織・HRM・意思決定」、「経営戦略」、「マーケティング」の各プロジェクトの担当教員が交代で講義をし、受講生がグループに分かれて与えられた課題について研究をおこなう。 初回に研究とは何かについて一般的な講義をし、そのあとに各分野の研究手法について個別に講義する。そのあとにいくつかの分野から課題が与えられ、受講生は課題ごとにグループに編成される。グループごとに課題について研究をおこない、最終回では報告会で報告して教員がコメントする。 【授業外学習】 指定された参考書がある場合はそれを読む。グループ課題に取り組む。					
④テキスト・参考書等	随時案内する。					
⑤成績評価方法	授業への貢献、研究報告等による。					
⑥特記事項 （他の授業科目との関連性）	1 年次生を対象とした科目である。「経営組織・HRM・意思決定」、「経営戦略」、「マーケティング」のプロジェクトに所属する 1 年次生は履修することが望ましい。 【オフィスアワー】 長瀬宛（nagase@tmu.ac.jp）もしくは他の担当教員へのメールでのアポイントメントによる。					

授業科目名	M	経営学演習(公共経営アクションリサーチ)	授業番号	P050	単位数	2
担当教員	高尾 義明、西村 孝史		冬季集中	別途案内		
①授業方針・テーマ	公共組織が共通に抱える問題を、实际的に「経営課題」として発見し、その解決策を、経営戦略論、経営組織論、マーケティング論など経営学の視点から探索し、具体的なフィールドワークをもとに報告書を作成することを目的とする。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	学術的知見に基づいた調査計画の作成、フィールドワークの実施、および報告書の作成を到達目標とする。調査の計画・実施及び報告書の作成を通じて、修士論文・課題研究論文の執筆に必要な研究を進めていくために必要なスキルを獲得できる。					
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	本学の「公共経営の人材育成プログラム」は、平成19年度に文部科学省「大学教育改革支援プログラム」として採択され、3年間の支援を受けたものである。文科省の支援事業終了後も、本学の教育改革推進事業に採択され、「東京都と連携した高度専門人材の養成」のための取り組みとして継続し、今日に至っている。 これまでに取り上げたテーマは、「防災と復興のマネジメント」、「コンテンツ利用の地域振興」、「島しょ地域の抱えた問題と地域経済の活性化」、「インバウンド観光の課題と地域振興」、「オリンピック・パラリンピック開催とスポーツマネジメント」など多岐に渡る。本年度のテーマについては、受講希望者の状況も踏まえながら追って発表する。 【授業方法】：テーマにかかわる招聘講師の講義とグループワークが中心となる。 【授業外学習】：調査計画の作成、調査の実施、報告書の作成は、授業外に行う。					
④テキスト・参考書等	必要に応じてその都度指定する。					
⑤成績評価方法	最終報告書の完成、およびグループ研究への参画度と研究成果の内容によって評価する。					
⑥特記事項 (他の授業科目との関連性)	本講義は変則日程の集中講義となる。後期開始後の日程については、他の授業との重なりはないように調整する（一部のみ重複する可能性はある）ので、他の後期授業は通常通り履修可能である。 グループでの現地調査に必要な往復交通費、宿泊代は大学が負担する。それ以外は個人負担とする。 本講義は、その性格上、無制限の人数募集を行うことができないため、希望者多数の場合には一部受講制限を行う可能性がある。					

授業科目名	M	経営学演習（知的財産法）	授業番号	P036	単位数	2
担当教員	溝田 宗司		後期	金曜日	6 時限	
①授業方針・テーマ	日本の競争力が損なわれて久しい。日本が競争力を取り戻すにはどうすればよいか。 担当教員は、新卒時は日立製作所知財部に始まり、現在は特許権侵害訴訟を主な業務内容とする弁護士であり、社会人生活のほとんどを技術と紛争の間で生きてきた。紛争には、勝ち負けがつきまとい、それ故、その勝ち負けの理由を考えることも多い。 負ける企業は何が悪いのだろうか。日本が競争力を取り戻すヒントもそこに隠されているように思う。 負ける企業は、ひとことでいえば「特許」を理解していないように思う。もちろん、「特許」という用語を新聞の紙面等で見ない日はないし、「そのくらい分かっているよ」という人も多いだろう。しかし、そうではなく、本質的に「理解」していない。例えば、少し前に越後製菓と佐藤食品工業が切り餅の侵害訴訟で世間を賑わせた。結果は佐藤の負けだ。会社の規模でいえば、両者ともそれほど変わらないし、負けた佐藤もそれなりの数の特許を保有していた。少なくとも「そのくらい分かっているよ」というレベル以上に特許をわかっていたことは明らかだ。 ではなぜ佐藤は負けたのか。 もちろん、判決文を読めば負けたことの直接的な理由はわかる。しかし、重要なのはそうではなく、佐藤の何が悪かったのだろうか。 また、最近では、ベンチャー企業の躍進が著しい。おそらく東京五輪頃までは、このブームが続くと思われるが、ベンチャー企業にとって、特許とはどのようなものなのだろうか。 日本の競争力の源泉は「技術」である、いや「技術」であったことは確かである。技術を保護するものが特許であるが、この技術に基づく競争力が損なわれたことには、このような特許に対する「理解」不足がその一因となっているのだと考えている。 本講義では、特許法の基礎・特許業界の構造を概説し、その後、担当教員が実務で経験した事例をベースとした特許戦略の基礎を概説する。 講義をしっかりと理解できれば上記の問題には自ずと答えられよう。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	特許法の基礎その他の知的財産法の基礎 特許戦略の基礎					
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	1 概要 2～7 特許法・特許実務 8、9、10 伝統的特許戦略（特許戦略の考え方・基本）・中小企業における特許戦略 11、12、13 事業戦略に結合した特許戦略（発展的な特許戦略） 14 総括 ただし、進行具合により適宜変更する。					
④テキスト・参考書等	[教科書] 特になし。毎回レジュメを配布する。 [成績評価の方法] 期末レポートと出席状況・受講態度 [前提知識] 必要なし。 [参考文献] 特に必要ないが、下記文献を読んでおけば授業の理解が深まる。 下町ロケット 池井戸潤著（小学館） 標準特許法 高林龍著（有斐閣）					
⑤成績評価方法	出席 2 割、講義への貢献 3 割、レポート 5 割 ただし、三回以上の無断欠席は不可とする。					
⑥特記事項 （他の授業科目との関連性）						

授業科目名	M	経営学演習(経営戦略とリアルオプション)	授業番号	P002	単位数	2
担当教員	中岡 英隆		前期	月曜日	5 時限	
①授業方針・テーマ	企業の経営は、不確実性下における戦略的な投資や企業価値創造に関わる様々なオプションに対する戦略的意思決定である。シナリオプランニングは、こうした観点から、近未来に起こり得る社会の構造的変化が自社にもたらすチャンス・危機を事前に描き出し、そのシナリオをstory tellingという形で組織内に共有して、構造変化に対して戦略的かつ俊敏に対応できる組織能力を育む為の経営手法である。本講義では、この米国経営者に最もポピュラーな経営手法の一つと言われているシナリオプランニングをグループ・ワークによる演習を通じて実践的に体得することを目指す。また、金融のオプション理論を実物資産の評価に拡張したリアルオプションは、不確実性下における戦略のフレキシビリティを評価できる最新の経営科学として、経営戦略や投資戦略、M&A戦略などに対するマネジメントの意思決定の最適化に不可欠な経営手法と言っても過言ではない。本講義では、最前線の企業活動のケースを通じて、優れたグローバル企業の経営戦略のデザインを洞察し、その中に織り込まれているオプションの仕組みについて実践的かつ直観的な理解を深めながら、オプション理論の基礎を直観的に理解し、リアルオプションの分析のフレームワークと実際の解法を習得する。そして、不確実性下におけるマネジメントの意思決定をサポートするための二つの重要な方法論であるシナリオプランニングとリアルオプションの融合という文脈において、新しいマネジメントの手法を洞察する。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	本講義では、シナリオプランニングとリアルオプションという二つの経営手法の新たな融合を目指して、まずシナリオプランニングの方法を学んだ上で、グループワークによる演習を通じてシナリオ分析の実践的な体得を図る。演習では、対象企業および産業に関する広範なデータ・スキャンニングと情報活用能力が求められ、グループ・ワークを通じてコミュニケーション能力、論理的思考力、総合的問題解決能力が高められる。次に、リアルオプションについては、まず優れたグローバル企業のケースを通じて、リアルオプションがどのように企業の経営戦略のデザインに織り込まれているのかを概観し、リアルオプションの基本的な仕組みの直観的な理解と、それを応用したビジネス戦略の本質的な仕組みについての洞察力を高める。これらにより、オプション理論の基礎的な考え方の直観的な理解が促され、それを踏まえてリアルオプションの分析のフレームワークと実際の解法が順を追って習得される。また、代表的な企業戦略の応用問題についてのケース・スタディを行いながら、リアルオプションの基本理論のさらなる直観的な理解を深め、不確実性下の企業戦略オプションに対するマネジメントの意思決定の最適化を考察することを通じて、論理的思考力、総合的問題解決能力が高められる。最後に、シナリオプランニングとリアルオプションの融合という文脈において、新しいマネジメントの手法を洞察する。					
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	① 不確実性下の経営戦略と投資の意思決定 ② 創発的戦略とシナリオプランニング ③ 戦略のデザインとリアルオプション ④ NPV法とリアルオプション ⑤ 離散時間モデルとリスク中立化法 ⑥ シナリオプランニング・グループ演習 ⑦ 確率積分と伊藤の公式 ⑧ シナリオプランニング・グループ演習 ⑨ リアルオプションの基本モデル（新規参入戦略） ⑩ シナリオプランニング演習結果グループ発表 ⑪ 基本モデルにおける意思決定の最適化 ⑫ 撤退戦略の最適化（プラズマテレビ事業の最適撤退戦略） ⑬ 操業停止・再開の最適化戦略 ⑭ 多品種少量生産戦略の最適化（スイッチング・オプション） ⑮ 医薬品研究開発プロジェクトの評価 [授業外学習] レジュメを読んでから授業に参加すること。グループワークは、授業外に各自がWebなどで情報収集を行い、グループのメンバーでできる限り情報を共有した上で、授業に臨むこと。演習問題は授業外に必ず取り組み、不明な点は授業中あるいはオフィスアワーに積極的に質問すること。					
④テキスト・参考書等	[テキスト] 毎回配布のレジュメによる。 [参考書] 木島正明、中岡英隆、芝田隆志 [2008]、『リアルオプションと投資戦略』朝倉書店。（毎回易しいレジュメにして配布予定） [参考文献] [1] キース・ヴァン・デル・ハイデン [1998]、グロービス監訳、『シナリオ・プランニング』ダイヤモンド社。 [2] マーサ・アムラム、ナリン・クラティラカ、石原雅行他訳 [2001]、『リアル・オプション』東洋経済新報社。 [3] トム・コーブランド、ウラジミール・アンティカロフ、栃本克之監訳 [2002]、『決定版リアル・オプション』東洋経済新報社。 [4] Dixit, A.K. and R.S. Pindyck (1994), Investment under Uncertainty, Princeton University Press.					
⑤成績評価方法	出席状況および授業への参加姿勢と課題発表・レポートにより評価する。					
⑥特記事項 (他の授業科目との関連性)	概ね文系レベルの数学を前提とする。 [オフィスアワー] 授業の前後あるいは事前にメールでアポイントを取得すること。					

授業科目名	M	経営学演習（企業倫理）	授業番号	P032	単位数	2
担当教員	岡本 享二		前期	金曜日	6 時限	
①授業方針・テーマ	『企業倫理論』ではBusiness Ethics に関する世界動向をとらえながら、企業と社会の間に生じる倫理問題を幅広く検証しています。先進国と発展途上国とのいわゆる南北問題、地球温暖化問題に代表されるグローバルな環境問題、TPPとも関連してくると思われる遺伝子組み換え食物の問題点など、豊富な具体例を示しながら、現在の企業倫理を受講生と活発に議論して参ります。現在の企業倫理論は、従来の道徳や社会規範の範疇を越えて、CSR(企業の社会的責任)で扱われている、グローバルな環境問題と社会問題を抜きには語ることができません。また、IoTによる社会の変化や企業の動向を踏まえた新たな企業倫理にも言及しています。さらに、グローバル化の功罪、行き過ぎた金融資本主義にもメスを当てて、それらが今日の企業倫理にどのような影響を与えているかを検証していきます。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	授業では広い視野に立った国際的な企業倫理の動向をお伝えします。企業の不祥事の事例を取り上げて、背景にある倫理観の欠如、だれも責任を取ろうとしない社会風潮、生半可な対応策で何度も繰り返される不祥事の解決法など、倫理問題を単なる道徳や哲学で片付けるのではなく、ビジネスとして明確に事象をとらえ、具体的な解決策を提示して行きます。 廃棄食品の再販売事件、軽井沢でのバス事故による15名の学生致死事件など、単に問題の事実関係と対応策を練るのにとどまらず、その背景にある社会の変化（経済至上主義や、運転手の過剰労働など）根本に遡って解決策を模索します。 また、グローバル化によって問題が顕在化してきたSCM(サプライチェーン・マネジメント)や、21世紀に入って急速に生産量が増加してきた遺伝子組み換え作物・家畜に関する詳しい現状と社会への影響、それにまつわる倫理問題と言う、最新の話題も提供して参ります。 講義は双方向コミュニケーションになるように皆さんにテーマを課して、研究成果を発表していただきながらディスカッションを行います。受講生には、出身母体を念頭に入れて、ご自身の考えをまとめていただくことをお願いします。					
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	(1) オリエンテーション (2) 地球温暖化に関する倫理問題 (3) 生物多様性保全の重要性 (4) 安全性・利便性と環境保護のトレードオフと倫理 (5) 類似事件の絶えない食品の企業不祥事と社会の変化 (6) 重大なバス事故と企業の倫理観 (7) 企業不祥事の検証と対応策（不祥事の背景と原因） (8) エシカル購入と企業の対応（耐用年数を恣意的に下げる企業） (9) グリーンエコノミーとブルーエコノミー（新たな国際的動向） (10) 環境持続性、社会的公正、存在の豊かさ (11) 情報の不確実性の下での新しい倫理の必要性 (12) 金融資本主義の限界と自然資本主義の流れ (13) 遺伝子組み換え作物開発の現状と倫理問題 (14) 遺伝子組み換え生物などの安全性評価システム (15) 企業倫理のこれまでの変遷と将来の動向 授業外学習として、その日に学んだテーマについて課題を出すので、次の授業までに提出すること。課題を出す回数は全15回の講義の内5～6回である。					
④テキスト・参考書等	「進化するCSR」岡本享二著 JIPMソリューション 「CSR入門」岡本享二著 日経文庫 「次世代CSRとESD」岡本享二（共著）ぎょうせい 「農業生物資源の利用と将来」農業生物資源研究所 丸善プラネット 「エシカル購入」山本良一・中原秀樹編著 環境新聞社 「地球温暖化とグリーン経済」山本良一・高岡美佳編著 生産性出版					
⑤成績評価方法	出席日数と授業中の発表・討論、課題リポートを重視して総合的に評価します。					
⑥特記事項 (他の授業科目との関連性)	社会人としての在職経験が望まれるが、必須ではない。 オフィスアワーは授業の前後とするので、質問があればその時間に受け付ける。					

授業科目名	M	経営学演習（CSR特論）	授業番号	P035	単位数	2
担当教員	岡本 享二		後期	金曜日	5 時限	
①授業方針・テーマ	21世紀の企業は経済的な成長と同時に、環境・社会問題への対応が幅広く求められています。20世紀後半に始まった環境対応のみならず、今日の難民問題、貧困問題、テロ対策、倫理問題など大きな社会問題の解決がCSRの主題です。 CSRは1990年代初頭に欧州から始まり、今や先進国のみならず、途上国においても環境悪化や労働・人権問題の高まりから強い関心を示しています。CSRの国際基準であるISO26000、財務内容とCSR項目を統合して掲載する動きに応えるIIRCなど、基本的な国際基準に始まり、企業が競争優位を築くためにCSRを自社の経営にどう活かしているかを学びます。CSRの必要性を喚起した現在の行き過ぎた金融資本主義に対する国際的な取組として、自然資本主義、バイオミミクリー（生物模倣）、ブルーエコノミーなどの先進事例も合わせて学びます。また、急速な科学技術の発展、特にIoTは環境/社会問題に対して大きな解決策を提供してくれます。この辺の最新の情報も取り入れて時代に先駆けたCSR論を展開しています。 この講座は講師の企業内でのCSR活動の体験、欧米に出向いての研究、これまでの当講座の受講生の膨大な現場報告などに基づいて、最新で豊富な実例からCSRの全貌を学んで参ります。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	CSRは経済・社会・環境の融合ととらえて「コンプライアンス」「ガバナンス」「リスクマネジメント」「環境対応」と捉えられがちですが、この講座では「先進国の消費のあり方」「貧困の撲滅」「生態系・生物多様性の保護」という根本原因に踏み込んでいます。その上で、日米欧の有力企業の具体例を示しながら、企業経営そのものにCSRを組み込む重要性を説いています。環境・社会問題の再考にはじまり、CSRの本質の追究のために資本主義のあり方や、生態系を利用した自然資本主義など、最新の社会科学を学んでいきます。さらにMoving Targetと言われるほど（深さ、広く）変遷するCSRを、欧米の最新事例を紹介しながらHolisticに受講生と議論しながら進めて行きます。					
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	（1）オリエンテーション （2）CSR MatrixとCSRの本質 ・CSRの全体像と変遷。経済中心社会の限界。 （3）IoTが変革するCSRの課題。 （4）欧米から学ぶCSRの起源と、江戸時代に学ぶCSR ・Gloval Compact、ISO26000、AA1000、GRI、IIRCなどの国際基準。 ・江戸時代の市民生活とCSRの発想。江戸時代の商人と倫理観。 （5）先進国の消費のあり方 ・発展途上国の貧困問題。資本主義の限界とグローバル化の負の部分。 （6）企業の不祥事に学ぶCSR （7）ホリスティック・マネジメント・システム （8）行き過ぎた資本主義の弊害 ・「資本主義はなぜ自壊したか」「暴走する資本主義」など経済学者の新視点。 （9）今日の資本主義の問題点を見据えていたカール・ポランニーの「大転換」 （10）食糧問題・農業・食の安全と遺伝子組み換え技術から学ぶCSR ・安全性、倫理、生物多様性への影響を検証する。 （11）SCM（サプライ・チェーン・マネジメント）に見るCSR ・SCMの変貌とグローバルな課題。ISO26000とSCM。 （12）次世代CSRへの展望 ・自然資本主義のひろがり。生態系や生物多様性に学ぶ企業経営とは。 （13）環境・CSR報告書から俯瞰する現代企業のCSR実践と課題＃1 （14）環境・CSR報告書から俯瞰する現代企業のCSR実践と課題＃2 （15）環境・CSR報告書から俯瞰する現代企業のCSR実践と課題＃3 授業外学習として、その日に学んだテーマについて課題を出すので、次の授業までに提出すること。課題を出す回数は全15回の講義の内5～6回である。					
④テキスト・参考書等	「進化するCSR」岡本享二著 JIPMソリューション 「CSR入門」岡本享二著 日経文庫 「次世代CSRとESD」岡本享二（共著）ぎょうせい その他、講義の中で随時コピーを配布する。					
⑤成績評価方法	出席日数と授業中の発表・討論、課題レポートを重視。 配点は出席点（50%）、発表・討論・課題レポート（50%）。 期末試験はしないで総合的に評価します。					
⑥特記事項 （他の授業科目との関連性）	社会人としての在職経験が望まれるが、必須ではない。 参考文献は授業中に適宜紹介する。 オフィスアワーは授業の前後とするので、質問があればその時間に受け付ける。					

授業科目名	M	経営学演習（戦略経営Ⅰ）	授業番号	P054	単位数	2
担当教員	坂本 雅明		前期	木曜日	5 時限, 6 時限	
①授業方針・テーマ	経営戦略が戦略の内容を対象にするのに対し、戦略経営では戦略のプロセス（策定―実行―評価）を対象にします。戦略経営という言葉は馴染みが薄いかもしれませんが、米国ではStrategic Managementという題名で、多数のテキストが出版されています。 戦略経営Ⅰでは、戦略の策定プロセスを扱います。戦略に関する理論や分析ツールについて、個別には理解している人は多いと思いますが、それでは戦略を策定することはできません。それらが策定プロセスの中で統合されなければなりません。何をどの順番で使うか、また何をインプットとして、次工程のために何をアウトプットにするかを理解する必要があります。もちろん、戦略策定プロセスは企業によって異なりますし、業種・業態によっても変わります。ここでは最も汎用的と思われるプロセスを取り上げます。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	戦略策定スキルを、再現可能なレベルで習得することを目指します。					
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	戦略策定プロセスを便宜的にいくつかのフェーズに分け、各フェーズでは講義の後に、ケーススタディーによってアウトプットしていただきます。ケースは事前課題として取り組んでいただきます。ただし1時間程度で完了する分量です。 授業当日はスモールグループ・ディスカッション（3-4人）を経た後で、全体討議をします。講義：グループディスカッション：全体討議＝3：1：1の時間配分を考えています。 ●使用ケース プラス/アスクル、村田製作所、ローム、パイオニア、ARM、Qualcomm、その他架空企業のケース等を予定。市販のケースではなく、講義内容に合うように作成したオリジナルケースです。 ●授業内容 01-02(04/13) 環境分析 ：外部・内部分析 03-04(04/27) 事業機会の検討 ：事業コンセプト、3C分析 05-06(05/18) 市場戦略の策定 ：顧客・競合分析、差別化戦略 07-08(06/01) 競争戦略の策定 ：業界構造分析、競争戦略、協調戦略 09-10(06/15) 企業戦略の策定 ：ドメイン、PPM、多角化、シナジー 11-12(06/29) 内部システム ：利益モデル、ビジネスシステム 13-14(07/13) 戦略の意思決定 ：戦略策定会議の設計とファシリテーション 15-16(07/27) 前期の振り返り、試験 ●授業日程 木曜日隔週・2コマ連続 04/13、04/27、05/18、06/01、06/15、06/29、07/13、07/27					
④テキスト・参考書等	毎回レジュメを配布します。 また、下記書籍で補足します。毎回の授業で、予習もしくは復習する章を指示しますので、講義開始以前には読まないでください。 坂本雅明（2016）『事業戦略策定ガイドブック』同文館出版。					
⑤成績評価方法	2回（4コマ）を超える欠席をしないことが最低条件です。 その上で、宿題、授業中の発言を考慮して成績を付けます。					
⑥特記事項 （他の授業科目との関連性）	戦略策定に関する幅広い知識を体系的に学ぶことができますので、M1での受講をお勧めします。 何よりも出席を心がけてください。3回（6コマ）を欠席した場合は、理由に関わらず単位を与えることはできません。 遅刻も控えてください。毎回の授業は教育効果を考えて3時間のスケジュールを設計しています。会社業務の関係で授業開始時間に間に合わないことがはっきりされている方は、履修なさらないことをお勧めします。 連絡先 sakamoto.tmu@gmail.com					

授業科目名	M	経営学演習（戦略経営Ⅱ）	授業番号	P055	単位数	2
担当教員	坂本 雅明		夏季集中	別途案内		
①授業方針・テーマ	戦略経営Ⅰの継続内容です。戦略経営Ⅱでは2種類のことを扱います。 1つ目は、グループワークでの戦略策定です。戦略策定Ⅰで学んだプロセスにもとづいて、ある企業（自社でも他社でも可）の新事業戦略を策定するか、もしくは、その企業の現状戦略を分析し、変革課題を抽出していただきます。 2つ目は、戦略の実行です。戦略の実行には、2つの側面が必要です。1つは、戦略の策定と同様に、論理性です。組織化やKPIの設定、目標展開では論理性が必要です。一方で、理屈だけでは人は動かず、相手の気持ちに訴えなければなりません。そこで2つ目の側面である対人関係力です。この両側面から、戦略を効果的に実行する方法を考えます。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	戦略を実行するための目標展開や進捗管理方法、および人を動かすための対人関係力を身に付けます。					
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	●戦略策定（グループワーク） 3～5人のグループを編成し、グループで検討テーマを決めて取り組んでいただきます。 授業時間中も検討時間を用意しますが、それだけでは十分ではありません。授業以外の時間を使って検討いただくことになります。最後に、すべてのグループに発表いただき、また相互評価をします。 ●戦略の実行（講義＋ケースディスカッション） 戦略実行のいくつかの領域について、戦略経営Ⅰと同じ要領で、講義とケースディスカッションをいたします。ショートケースを使ったディスカッションをした後に、講義をします。一部のケースは、事前課題（1時間程度）として取り組んでいただきます。 ●授業内容 01-02(08/17) グループ課題					

授業科目名	M	経営学演習（ケース）	授業番号	P063	単位数	2
担当教員	西村 孝史		前期Ⅱ	月曜日	5 時限, 6 時限	
①授業方針・テーマ	この授業では、人材マネジメント・組織行動論を中心としたビジネスケース分析を【2コマ続き】で実施します。ケースを通じて多くの組織や個人がなぜ成功（失敗）するのか、その背後に何が存在するのかを分析する視座を養います。特にグループでの討議の時間を多く取ることで、同じケースでも人によって見え方や解釈が異なることを体感してもらい、様々な分析視角を得ることを目指します。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	この授業では、1）様々な科目で学んだ知識を総合的に用いることで実際の企業を分析する力を養うこと、2）ケースに書かれている事象と背後にある抽象的なメカニズムをつなげる思考を養うことで、ケース以外の様々な場面でも抽象度を上げたり下げたりできるようになること、の2点を目的とします。					
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	基本的には、各人がケースを読んで課題を解いてくる⇒当日にランダムなグループで話し合い⇒各グループの発表⇒全体討議⇒まとめ、という流れで授業が構成されます。 授業外の学習として、受講生はあらかじめケースを読んだ上で設問に回答し、レポートを作成した上で授業に臨むこと。					
④テキスト・参考書等	どのようなケースを扱うかは初回で説明をしますが、原則として購入が必要なものをを用いる予定です。どこで入手可能かは初回で説明します。					
⑤成績評価方法	授業への参加、積極的貢献及びレポートにより評価します。					
⑥特記事項 (他の授業科目との関連性)	1. 「ヒューマン・リソース・マネジメント特論」・「経営組織特論」・「組織行動特論」から1科目以上を履修済み（または履修中）であることが望ましい。 2. 授業で扱うケースは、著作権が保護された上で販売されているため、各自でBookparkから購入をしてください。 http://www.bookpark.ne.jp/about/partner.asp 3. オフィスアワーは、水曜日12:00-14:30で研究室（3号館305号室）ですが、訪問の際は事前にメールにて教員にアポイントを取ること。					

授業科目名	M	経営学特別演習	授業番号	P014	単位数	2
担当教員	野口 昌良、細海 昌一郎		後期	土曜日	4 時限	
①授業方針・テーマ	管理会計では、理論と実務の乖離の原因を究明したり、ある管理会計技法が企業業績に与える影響を検証したりといった研究が行われますが、近年、その研究方法において実証的研究方法の重要性が増しています。 すなわち、財務会計を含む会計学の領域では、会計の原理や技術的特徴のあるべき姿を探究する規範的研究も必要ですが、現行の会計実務を一応肯定的に受け止め、その存在理由を説明するために統計手法を用いて行う実証的研究の重要性が増しているといえます。また、こうした傾向は会計学研究に限ったことではないと思われます。 そこで、本演習では、こうした認識を前提に、修士論文作成に役立つ研究方法として、実証的研究方法（研究手法）の基礎について検討し、研究の実践に役立てることを目的としています（ただし、あくまでも基礎ですので、より高度な研究手法については各自検討されたい）。 なお、前述のように、こうした傾向は会計学研究に限ったことではないと思われるので、研究方法や実務の参考にしたいと考えている会計学専攻以外の学生の参加も歓迎します。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	本演習では、こうした認識を前提に、修士論文作成に役立つ研究方法として、実証的研究方法（研究手法）の基礎について検討し、研究の実践に役立てることを目的としています（ただし、あくまでも基礎ですので、より高度な研究手法については各自検討されたい）。					
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	毎回、実証的研究手法の基礎について解説したのち、実際にExcelやSPSS等を用いて基礎的な演習を行います。					
④テキスト・参考書等	テキストは特に指定しません（レジュメ配布）。 [参考文献] [1] 鈴木功一監訳『ビジネス統計学（上）（下）』ダイヤモンド社、2007。 [2] ダン・レメニイ他著『社会科学系大学院生のための研究の進め方—修士・博士論文を書くまえに—』同文館出版、2002。 [3] 牧厚志他著『経済・経営のための統計学』有斐閣、2005。 [4] 門田安弘『経営・会計の実証分析入門』中央経済社、2003。 [5] Mason, Robert D. and Douglas A.Lind, Statistical Techniques in Business and Economics, Irwin/Mcgraw-Hill, 1996。					
⑤成績評価方法	演習参加度と演習課題に基づいて評価します。					
⑥特記事項 （他の授業科目との関連性）	・基本的なPCの能力を前提に行います。また、「管理会計特論」を併せて履修することが望ましい。 ・オフィスアワー：原則として月曜日 5 時限目としますので、質問等があれば研究室（3-233）にきてください。 ・連絡先：hosomi@tmu.ac.jp					

授業科目名	M	経営学特別演習	授業番号	P021	単位数	2
担当教員	渡辺 隆裕、室田 一雄、 森口 聡子、山下 英明		後期	金曜日	5 時限	
①授業方針・テーマ	実社会における経営科学をテーマとし、経営科学、オペレーションズ・リサーチの事例研究や最近の研究動向をサーベイする。 解説記事、研究論文などを受講生に割り当て、授業中に受講生各自がその内容について解説する輪読方式を採用する。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	以下を習得することを目的とする。 1. 経営科学が実社会においてどのように役立っているか 2. オペレーションズ・リサーチ、数理計画による経営上の問題の解決法、意思決定能力 3. 数理モデル化の技術					
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	【授業計画】 1. 実社会におけるオペレーションズ・リサーチ 2. 数理モデルとシミュレーション 3. 待ち行列理論（1）混雑現象 4. 待ち行列理論（2）キャッシュのモデル化 5. 待ち行列理論（3）コールセンター 6. 数理計画を用いた意思決定 7. 計算機（コンピュータ）による求解と計算複雑度 8. 線形計画問題（1）解法 9. 線形計画問題（2）生産計画への応用 10. グラフ理論とネットワーク計画（1）ロジスティクス 11. グラフ理論とネットワーク計画（2）都市計画とネットワークデザイン 12. 組合せ最適化（1）施設配置計画 13. 組合せ最適化（2）シフトスケジューリング 14. 組合せ最適化（3）発見的解法、メタヒューリスティクス 15. 在庫管理とSCM 【授業方法】 解説記事、研究論文などを受講生に割り当て、授業中に受講生各自がその内容について解説する輪読方式を採用する。演習に対する発表も求める。 【授業外学習】 テキスト・論文の担当者は、本質的な内容を理解し、わかりやすく説明できる（講義ができる）ように準備をしてくること。					
④テキスト・参考書等	上記の解説記事、研究論文を教材として用いる、教材は配付する。					
⑤成績評価方法	授業中の発表、平常の理解度、レポートに基づいて評価する。					
⑥特記事項 (他の授業科目との関連性)	【前提知識】 マネジメント・サイエンスⅠ、Ⅱを受講している、あるいは受講中であることが望ましい。 【オフィスアワー】 授業内容の質問については、まず質問者がメールで教員に連絡し、必要があれば教員が面談の日時を質問者と相談の上設定する方式をとる。各教員のメールアドレス等、詳しくは初回の授業において説明する。					

授業科目名	M	経営学特別演習	授業番号	P022	単位数	2
担当教員	高尾 義明、西村 孝史		後期	火曜日	5 時限	
①授業方針・テーマ	組織行動論及びヒューマン・リソース・マネジメント（人材マネジメント／人的資源管理論）に関する文献講読を行うとともに、これらの分野を研究するための研究方法について解説します。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	・組織行動論およびヒューマン・リソース・マネジメント（人材マネジメント／人的資源管理論）に関する文献講読を通じて、これらの領域における理論枠組みについての理解を深めること ・受講生が当該領域についての学術的かつ独自の問題意識を見出し、修士論文・課題研究論文の土台を作ること ・文献講読でのディスカッションを通じて、研究を進展させるために不可欠なアカデミック・コミュニケーションを円滑に行う能力を身につけることができる。					
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	前半の授業では、1コマで1～2本の論文を読み、原則として文献ごとに決めた発表担当者が文献内容を発表したうえで、それに基づくディスカッションを行います。後半の授業では、各自が探したレビュー論文を紹介してもらうことや研究計画書を発表してもらうことを予定しています。 第1回で受講生の関心を把握し、それを踏まえて論文を決定しますので、どのような論文を取り上げるかについては第2回で説明します。 【授業方法】上記のように、文献講読とそれに基づくディスカッションが中心です。 【授業外学習】毎回の文献を事前に講読してくること、発表を担当する際には文献のレジュメ（要約）を作成することが求められます。					
④テキスト・参考書等	毎回講読する文献については第1回で説明し事前に配付します。 以下のテキストは購入の必要はありませんが、手元にあると参考になる本です。 〔1〕 守島基博（2004）『人材マネジメント入門』（日本経済新聞社、定価 830円） 〔2〕 今野浩一郎（2009）『人事管理入門 第2版』（日本経済新聞社、定価 3,000円） 〔3〕 佐藤博樹・藤村博之・八代充史（2015）『新しい人事労務管理 第5版』（有斐閣、定価 2,000円） 〔4〕 Robbins, S.P. (2005). Essentials of Organizational Behavior, 8th Edition Prentice-Hall（高木晴夫訳（2009）『組織行動のマネジメント』（ダイヤモンド社、定価 2,800円） 〔5〕 二村敏子（2004）『現代ミクロ組織論』（有斐閣、定価 2,400円）					
⑤成績評価方法	授業への参加、発表の担当をはじめとした積極的貢献（80%）及びレポート（20%）により評価します。					
⑥特記事項 （他の授業科目との関連性）	【他の授業科目との関連性】「ヒューマン・リソース・マネジメント特論」・「経営組織特論」から1科目以上を履修済み（または履修中）であることが望ましい。 【オフィスアワー】 オフィスアワーは特に設定しませんが、直接質問したい場合は随時受付しますので、事前にメールでアポイントメントをとってください。 【連絡先】 ytakao@tmu.ac.jp または nishimura@tmu.ac.jp 【その他】 資料は、原則としてkibaco(web上) にアップします。					

授業科目名	M	経営学特別演習	授業番号	P028	単位数	2
担当教員	長瀬 勝彦		後期	月曜日	6 時限	
①授業方針・テーマ	行動意思決定論について研究する。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	行動意思決定論の理論枠組みと諸概念についての理解を深め、基礎的な研究アプローチの手法を修得する。					
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	行動意思決定論に関連する重要文献を読み授業でディスカッションをして知識を深めると共に学術的思考力を養う。 【授業外学習】 課題レポートの作成（前半）、英文の論文を読んだレポート作成（後半）。					
④テキスト・参考書等	前半は『行動意思決定論：バイアスの罠』（M.H. ベイザーマン＆D.A. ムーア [著]、長瀬勝彦 [訳]、白桃書房、2011年）を教科書として、毎回事前課題を提出し、それをもとに議論する。後半はひとりずつ英語の学術論文について報告し、それについて受講者間でディスカッションをする。					
⑤成績評価方法	授業での発言やレポート等により評価する。試験はおこなわない。					
⑥特記事項 （他の授業科目との関連性）	意思決定特論を履修済みであることを条件とする。 【オフィスアワー】 長瀬宛のメール（nagase@tmu.ac.jp）でのアポイントメントによる。					

授業科目名	M	経営学特別演習	授業番号	P040	単位数	2
担当教員	高橋 勅徳、桑田 耕太郎		後期	土曜日	1 時限, 2 時限	
①授業方針・テーマ	組織理論（マクロ組織論、制度派組織論、組織変革等）で修士論文等を執筆する予定の学生を対象に、基礎的な文献を学習しつつ、論文のテーマを絞り込んでいくことを目的とする。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	組織理論（マクロ組織論、制度論、組織変革論）の基礎的文献に関する知識を習得すると共に、修士論文等を作成の研究計画の策定していくことを到達目標とする。					
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	本講義では、マクロ組織論、制度派組織論、組織変革論の古典の輪読を行うと共に、月1～2回のペースで研究計画の報告会を行う。					
④テキスト・参考書等	随時指定する。 各自の問題意識に応じて必要文献を紹介するので、随時相談に来ること。					
⑤成績評価方法	修士論文等の問題意識や方向性が明確になっているかどうかを評価する。					
⑥特記事項 (他の授業科目との関連性)	原則として、ビジネスイノベーション特別演習の授業と変則交代で開講するため、開講日程に十分注意すること。2コマ連続授業であるため、欠席しないで授業に積極的に参加すること。					

授業科目名	M	経営学特別演習	授業番号	P046	単位数	2
担当教員	水越 康介、中山 厚穂、森 治憲		後期	土曜日	4 時限	
①授業方針・テーマ	演習では、主にマーケティング論に関する問題認識の醸成を目的として、先行研究を読み解くとともに、研究方針の検討を行います。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	まず、伝統的な心理学的アプローチを基本に据え、消費者行動の基礎的な理論から先端的な研究動向について学び、その後、具体的な商品やサービスの事例を通して、マーケティング戦略を実行するためのデータ解析の手順や手法について学習する。					
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	①先行研究の輪読と分析（例） ・『マーケティングの神話』（石井淳蔵） ・『1からのマーケティング分析』（恩蔵直人、富田健司） ②研究方針の検討 ※具体的な内容については、参加者との打ち合わせを経て変更の可能性がある。 【授業外学習】 輪読のための準備や実習課題などを、適宜、自宅学習の課題として設定する予定である。					
④テキスト・参考書等	テキスト 『マーケティングの神話』（石井淳蔵） 『ことばとマーケティング』（松井剛） 『1からのマーケティング分析』（恩蔵直人、富田健司） 参考書 『新しい消費者行動』（清水聡） 『マーケティング思考の可能性』（石井淳蔵） 『マーケティング入門』（小川孔輔） 『マーケティング・サイエンスの基礎』（朝野熙彦）					
⑤成績評価方法	出席状況と、報告・発表内容によって総合的に評価する。					
⑥特記事項 (他の授業科目との関連性)	マーケティング・マネジメント特論、マーケティング・サイエンス特論、マーケティング・サイエンス特別演習を受講していることが望ましい。					

授業科目名	M	経営学特別演習	授業番号	P047	単位数	2
担当教員	竹田 陽子、松田 千恵子、松尾 隆		後期	土曜日	4 時限	
①授業方針・テーマ	経営学特別演習は、演習参加者の問題意識の醸成、研究課題の深掘、研究計画書の精緻化を目的として開講する。前半に、研究方法論についての実習を行い、後半は専門的な研究の実例に触れ研究手法などを学ぶことで、自身の研究の指針とする。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	同上					
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	① オリエンテーション（研究に向かうマインドセット）（松尾） ② 研究領域の決定と既存研究のサーベイ（松尾） ③ 研究領域のマップ作成（松尾） ④ キー論文の精読（松尾） ⑤ 研究テーマ、仮説の決定（松尾） ⑥ 技術と戦略1（松尾） ⑦ 技術と戦略2（松尾） ⑧ 研究計画に関する中間発表（松田） ⑨ 経営戦略と資本市場との関係（松田） ⑩ 企業価値の創造とコーポレートガバナンス（松田） ⑪ 研究計画作成にあたっての具体的なポイント ⑫ 経営戦略分野における研究手法の基礎（1）-実証分析、イベントスタディ等（松田） ⑬ 経営戦略分野における研究手法の基礎（2）-ケーススタディ等（松田） ⑭ 経営戦略分野における研究手法の基礎（2）-インタビュー、アンケート等（松田） ⑮ 研究計画の発表とディスカッション（松尾、松田）					
④テキスト・参考書等	・適宜パワーポイント等の資料を使用することがある ・その他、参考書としては以下の通り。 [1] 楠木建『ストーリーとしての競争戦略論』（東洋経済新報社）、 [2] 藤本隆宏ほか『ビジネスアーキテクチャ』有斐閣 [3] 吉原英樹ほか『日本企業の多角化戦略』（日本経済新聞社） [4] ロバート・C・ヒギンズ『新版 ファイナンシャル・マネジメント ― 企業財務の理論と実践』（ダイヤモンド社） [5] ティム・カラーほか『企業価値評価 第5版【上】【下】』（ダイヤモンド社） [6] 松田千恵子『グループ経営入門』（税務経理協会） [7] 松田千恵子『コーポレートファイナンス実務の教科書』（日本実業出版社） [8] 北村行伸『実証分析入門』日本評論社 [9] G. キングほか『社会科学のリサーチ・デザイン―定性的研究における科学的推論』勁草書房 [10] 久米郁男『原因を推論する 政治分析方法論のすゝめ』有斐閣 ほか					
⑤成績評価方法	課題の発表内容とディスカッション参加度により評価する					
⑥特記事項 (他の授業科目との関連性)	前期に、経営戦略特論、経営戦略特別演習のいずれかの講義を受講していること					

VI. ビジネススクール(丸の内サテライトキャンパス)における 交通機関運休の場合等の授業の取扱いについて

丸の内サテライトキャンパスにおける高度金融専門人材養成プログラム及び高度専門職業人養成プログラムの授業の休講について、取り扱いは次のとおりとします。

1 休講等を検討する場合

- (1) J R線及び地下鉄各線が著しく「運休」し、通学に支障をきたす場合
 - (2) 東京23区に気象警報(大雨、洪水、暴風、暴風雪、大雪等)が発令されている場合
 - (3) 首都圏を対象とした「大規模地震の警戒宣言」が発令された場合
- (1)、(2)の場合は状況をもとに休講について検討する。(3)の場合は発令された時点で休講とする。

(注)「運休」とは、テレビ及びラジオ等により当該路線の全線の運転休止が確認されているものをいう。

2 休講を決定する時刻

平日 第1時限～第2時限(9:30～12:45)については午前7時までに決定する。
第3時限～第4時限(14:00～17:15)については午前11時までに決定する。
第5時限～第6時限(18:20～21:30)については午後4時までに決定する。

土曜日 第1時限(10:30～12:00)については午前8時までに決定する。
第2時限から第4時限(13:00～17:50)については午前10時30分までに決定する。

3 周知方法

上記各項に基づく休講措置については、BSホームページへの掲載又はメール配信のいずれかの方法にて提供する。

BSホームページURL : <http://www.biz.tmu.ac.jp/bs/>

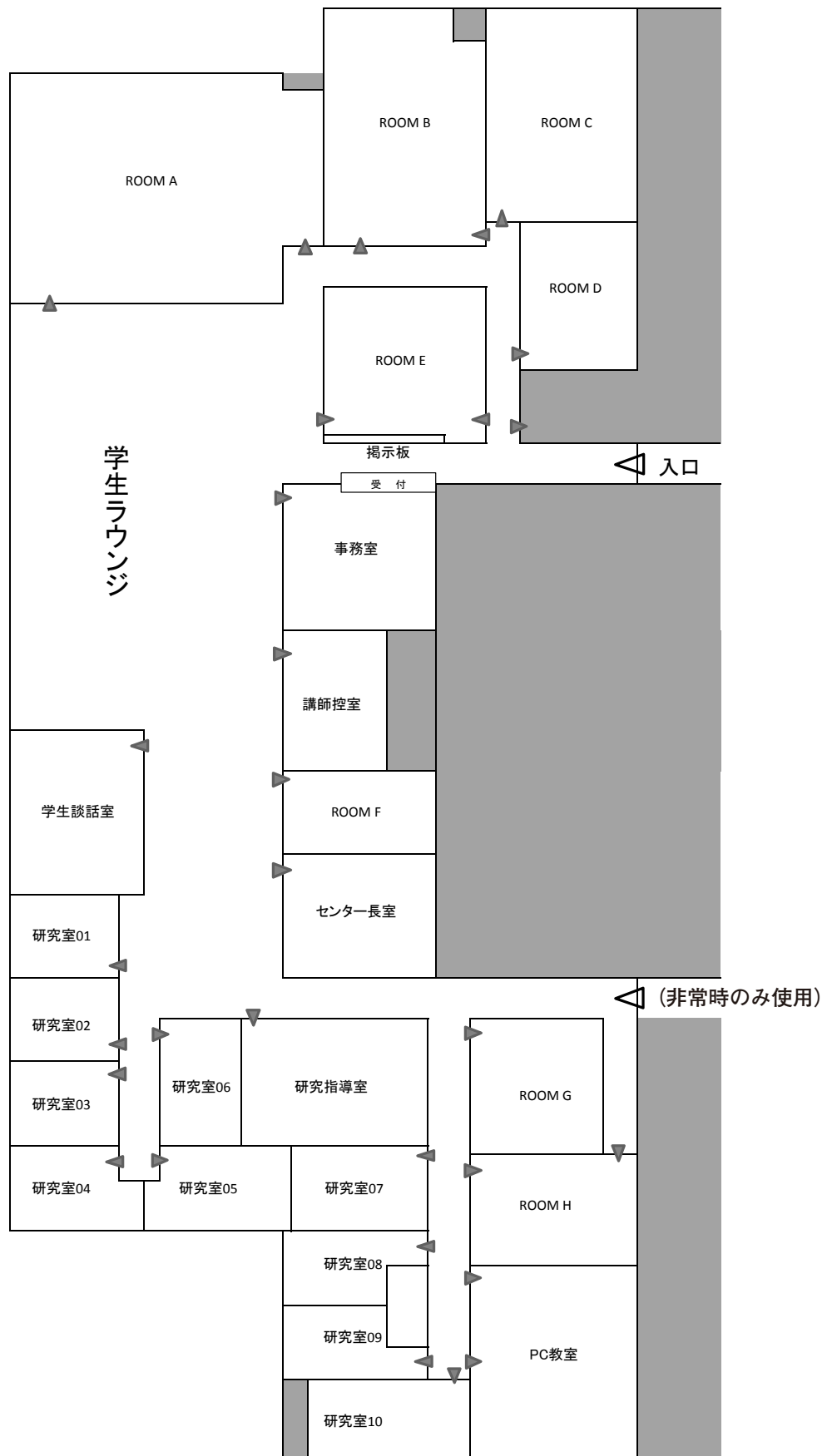
丸の内サテライトキャンパス内における緊急時の対応について

授業中等に地震や火災の発生により防災センターから避難放送が流れる場合があります。その場合は避難放送の指示に従い行動します。避難指示があるまでは教室で待機してください。

なお、待機中は、永楽ビルディング内の他テナント所有部分等に立ち入ることのないよう、注意して下さい。

VII. 丸の内サテライトキャンパス平面図

(1) 首都大学東京エリア（拡大図）



(2) 丸の内永楽ビルディング 18 階 (全体図)



平成29（2017）年度
社会科学研究科経営学専攻
（高度専門職業人養成プログラム）
授業概要・履修案内

登録番号 (28) 109

平成29年 4 月 1 日発行

発 行 首都大学東京大学院社会科学研究科
東京都八王子市南大沢一丁目 1 番地
〒192-0397 電話 042（677）1111
印刷所 株式会社 サンニチ印刷
東京都渋谷区代々木 2-10-8
〒151-0053 電話 042（567）6233



古紙含有率70%再生紙を使用しています